

第111图 平成5年度出土遺物実測図

## 平成6（1994）年度

現地調査期間……平成6年10月3日～12月9日

調査箇所……松江市七本庄町原後1539-2番地外

平成6年度においては、7工区、8工区についてトレンチ（10×2m）40箇所を設定し、遺跡の有無の確認調査を実施した。

### 7工区

7工区については水田部分にトレンチ（10×2m）17本を設定し、調査を実施した。調査の結果、土層の堆積状況としていずれのトレンチにおいても表土は水田の耕作土で、その下層（第2・第3）は茶褐色及び黄褐色～灰褐色の粘質土であり、最下層は転石（河原石）を含む自然堆積物の砂層や礫層によって形成されており、本庄川の流入があったものと考えられる。

T-6については排水施設と思われる箇所を検出したが、生木（竹・枝）を組み合わせたものであり近年の排水施設と推定される。T-14については水田面下約30～60cmにおいて黒色粘質土層が検出しているが、この下層より礫層が、また南側同レベルにおいて暗茶褐色砂質土（礫混入）をそれぞれ検出していることからこの黒色粘質土層は口耕作土で南側の砂質土層は近年の土地改良によるものと思われる。これらの土層においては遺物は出土しなかった。

T-16については水田面下約30cmにおいて明灰色粘質土における杭跡が検出されたが、トレンチ内において1箇所しか検出されず、遺物も出土していないことからこの杭跡が近年のものと考えられる。

遺物については、ほとんどが摩滅し、本庄川上流からの流れ込みによるものと思われる。T-8・13・15については耕作土より須恵器、土師器の細片がそれぞれ出土した。

T-1～7・9～12・14については耕作土及び砂礫層から須恵器、土師器、古式土師器の細片がそれぞれ出土している。

T-9については水田面下約20cmの青灰色砂質土層（礫混入）より小型短頸甕が底部を上に向けて出土した。

T-16・17については遺物は出土しなかった。



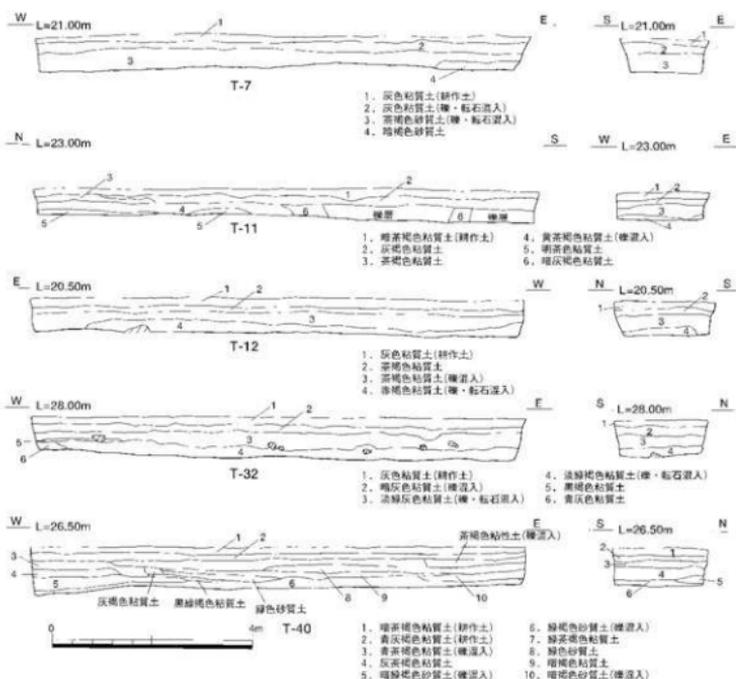
T-7完掘状況



T-11完掘状況



T-12完掘状況



第112図 平成6年度調査トレンチ土層断面図

## 8工区

8上区については水田部分にトレンチ(10×2m)23本を設定し、調査を実施した。調査の結果、十層の堆積状況としていずれのトレンチにおいても表土は水田の耕作土で、その下層(第2・3層)はほぼ茶褐色及び暗褐色～灰褐色の粘質土(T-27を除く)であり最下層は転石(河原石)を含む自然堆積物の砂層や礫層によって形成されており、本庄川の流入があったものと考えられる。同時にトレンチの所々に近年の土地改良の痕跡が垣間見られる。

T-32については第3層より黒褐色粘質土による一見溝状遺構らしきものが検出したが割合に浅く、遺物も出土していないため遺構であるかは判断しがたい。

T-37については水田面下約30cmより暗褐色粘質土における杭跡が検出されたが、T-16同様近年のものと思われる。



T-32完掘状況

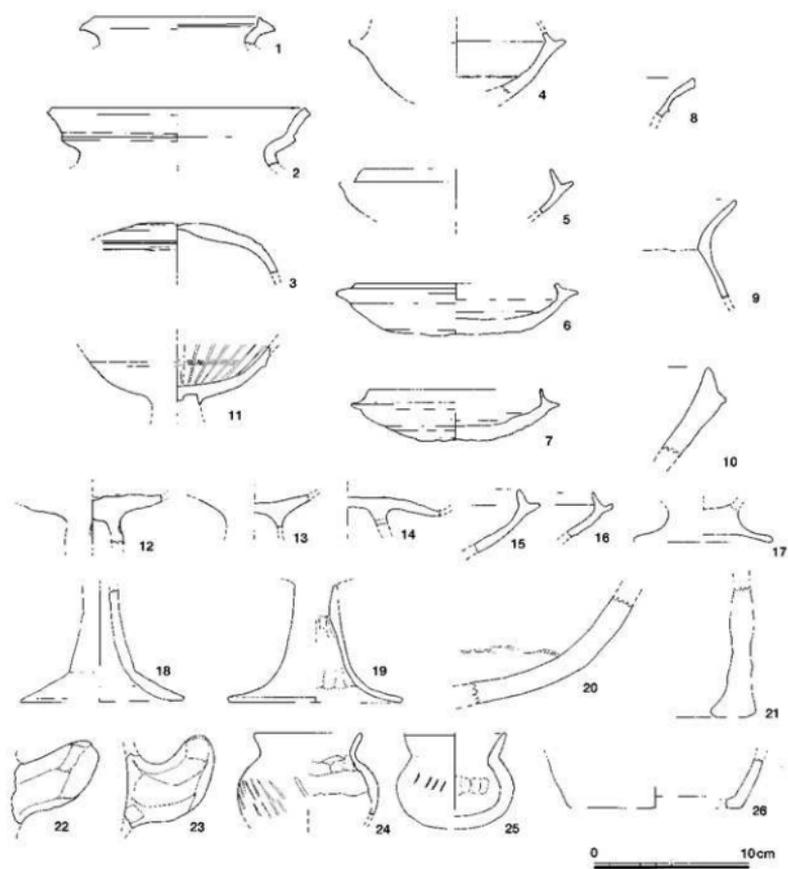
遺物についてはほとんどが摩滅し、本庄川上流からの流れ込みによるものと思われる。T-18・22・32・35・39については耕作土より須恵器、土師器、白磁器の細片がそれぞれ出土している。T-23・33・34については粘質土から須恵器、土師器の細片がそれぞれ出土している。T-25・27～29・36・40については耕作土及び砂礫層から須恵器、土師器、古式土師器の細片がそれぞれ出土している。



T-40完掘状況

T-40については水田面下約30cmの青茶褐色粘質土（礫混入）より土師器の高坏脚部2、口縁部1が出土している。

T-19～21・24・26・30・31・37・38について遺物は出土しなかった。



第113図 平成6年度出土遺物実測図

## 平成7（1995）年度

現地調査期間……平成7年4月27日～5月31日

調査箇所……松江市上木庄町1523・1番地外

平成7年度8丁区の発掘調査を行うため、基本的に扇状地の等高線に垂直になるように下記の通りのトレンチを設定し、調査を行った。

T-1（40×2 mのトレンチで、北から南へ6 m、8 m、8 m、6 mに区画し、①区～⑤区とする。）

T-2（14×2 mのトレンチで、北から南へ8 m、6 mに区画し、①～②区とする。）

T-3（24×2 mのトレンチで、北から南へ8 m、8 m、8 mに区画し、①区～③区とする。）

調査の結果、土層の堆積状況はいずれのトレンチにおいても表土は水田の耕作土であった。その下層には、同質であるが酸化鉄の脱漏によって脱色され灰色系を呈する粘質上層が存在している。この第2層までは既に人為的攪乱を受けており、さらにT-12においては、黄褐色系粘質上層に至るまで大規模な人為的攪乱があったと推定される。なお、攪乱層の下は、全てのトレンチにおいて土石流に起因するものと推定される砂質土または礫が堆積していた。

T-1 ①～④、T-3 ①は、遺物包含層が第2層までの耕作上層及び同質の灰色系粘質上層に限られ、土師器から近世に至るまでの土師質土器や須恵器、陶磁器が混在しており、遺構も検出されなかった。

T-1 ⑤、T-3 ②・③においても、第2層までから他調査地区同様、他時期に至る遺物が出土したが、本調査区については第3層以下からも遺物を検出した。

T-1 ⑤は第3層から土師器細片6片が出土したが、人為的な攪乱を受けており、遺物は検出されなかった。

T-2 ①からは表土下から中世陶器片1片が出土したが、T-2 ②からは遺構・遺物は検出されなかった。

T-3 ②からは、第3層から平瓶と推定される須恵器片が1片、壺と推定される須恵器片2片が出



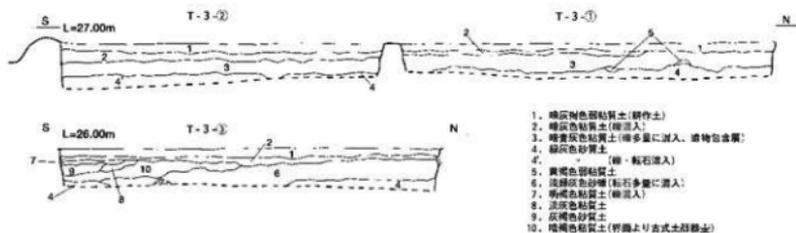
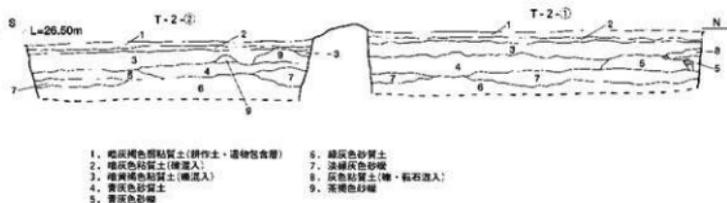
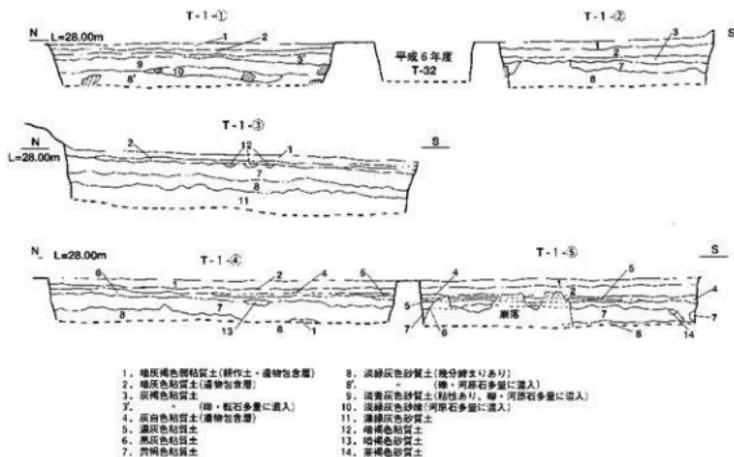
T-1 完掘状況



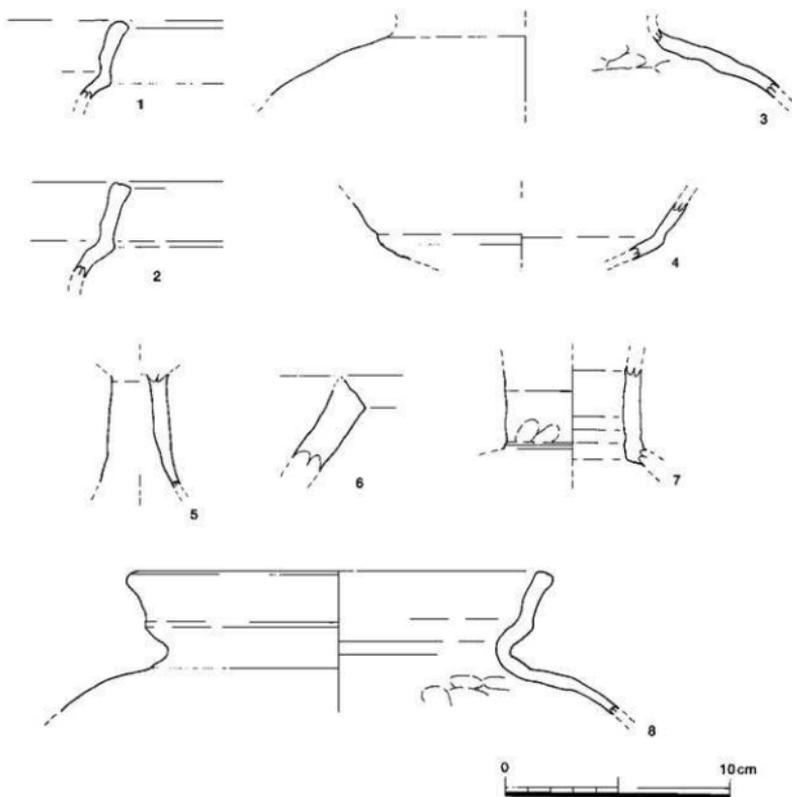
T-2 完掘状況



T-3 完掘状況



第114図 平成7年度調査トレンチ土層断面図



第115図 平成7年度出土遺物実測図

した。礫層からの出土であること、瓷片の摩滅が著しいことなどからすると、旧河川による遺物流入であると考えられる。遺構は検出されなかった。

T-3③からは、土層面に流路の断面が検出され、河川堆積と推定される灰褐色砂質土と暗褐色粘質土の界面から土師器瓷片が出土した。流路跡の規模は不明であるが、現木庄川の氾濫を想定した場合、影響を受けやすい区域であることを考えると遺物流入の可能性が高い。遺構は検出されなかった。

平成8（1996）年度

#### 前期調査

現地調査期間……平成8年4月22日～7月18日

調査箇所……松江市上本庄町1511番地外

平成6年度調査で遺物が多量に検出された3地点について、2×40mのトレンチを設定し、東から順に第1、第2、第3調査区とし、遺物や遺構の検出に応じて拡張する形で調査を行った。第1調査区では溝状遺構2、掘立柱建物跡1、小竪穴状遺構跡1、ピット数穴が検出され、古墳時代を中心とした多量の遺物が出た。第2調査区では遺構はなかったが、古墳時代を中心とする弥生から中世までの土器類が多量に出土した。第3調査区では弥生～古墳時代の竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡2棟、ピット多数が検出され、弥生～古墳時代の遺物が多く出た。

#### 第1調査区

十層について

第1層 水田耕作土

第2層 淡灰色粘質土

第3層 黄紫色粘質土（小～中礫を多量に含む）遺物多量

第4層 暗灰色粘質土（礫をほとんど含まない、炭を点々と含む）遺物多量

第5層 灰褐色粘質土（20～70cm大の礫、転石を多量に含む）

土石流によるもので調査区内の北から東にかけて広がる。遺物多量

第6層 灰青色粘質土 第5層の東部直下のみ見られる。遺物少量

第7層 淡黄緑色粘質土（小～中礫を多量に含む）第6層の下で確認、遺物なし

第8層 淡橙色～淡黄緑色粘質土 遺物なし

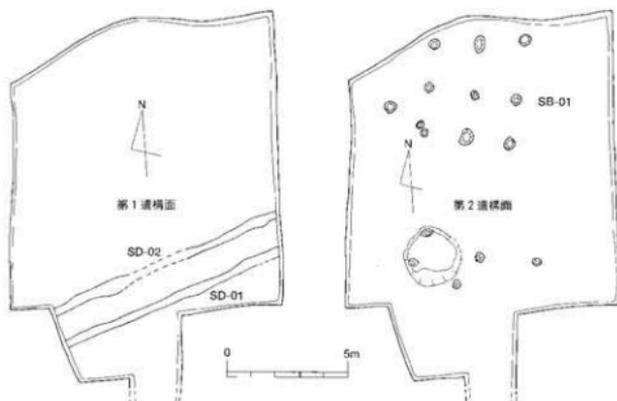
第7層と第8層の上下関係については確認できていない。

遺構について

第3層上面で第1遺構面、第8層上面で第2遺構面を検出した。第1遺構面にはSD-01、SD-02があり、第2遺構面はSB-01とピット、小竪穴状遺構が存在した。



7工区調査前全景



第116図 第1調査区平面図



S D-01検出状況



S D-01の石列と土石流

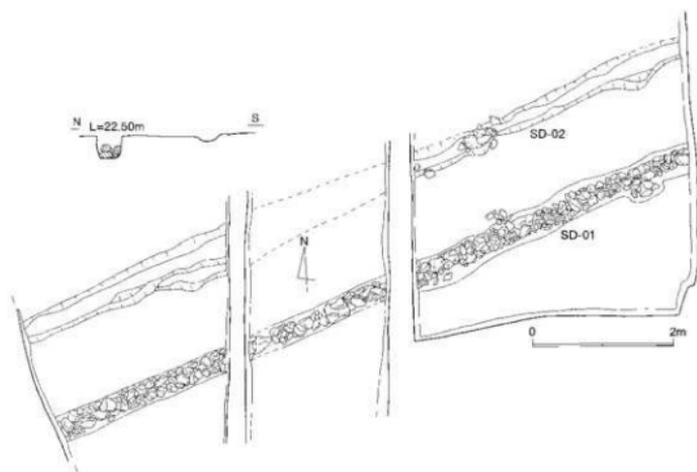
#### 溝状遺構1 (S D-01)

上端幅35cm、下端幅25cm、深さ30~35cmを測る断面逆台形状を呈し、約3分の2の深さまで5~30cm大の礫が充填されていた。礫の上には板状のものをかぶせて埋め戻した痕跡が見られた。検出長は約10mであるが、東西方向にさらに伸びるものと思われる。溝底面のレベルは東西で15cm程の高低差があり、東が低くなっている。以上のことから用途としては暗渠状のものと考えられるが、類例を知らず決め手に欠ける。

また出土遺物がなく時期がよく分からないが、中世の土師質土器や古墳時代後期の遺物を含む上層に埋り込まれていることから、中世又は近世の遺構と考えられる。

#### 溝状遺構2 (S D-02)

S D-01に平行して走る浅い溝である。上端幅35~70cm、下端幅15~25cm、深さ6~10cmを測り、断面は浅いU字状を呈している。



第117図 S D-01・02実測図

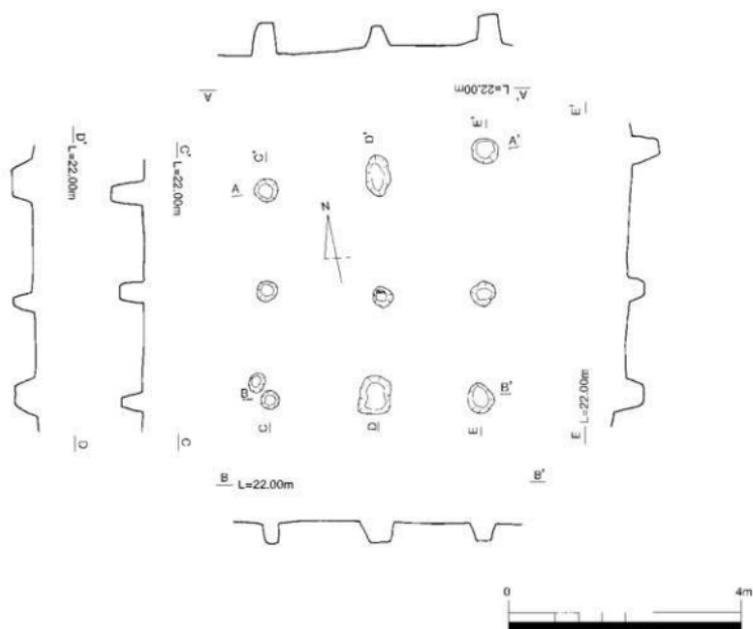
検出長は約10mであるが、S D-01と同じくさらに東西に伸びるものと思われる。東西の溝底面のレベル差は約10cmあり、やはり東が低くなっている。出土遺物はなかった。検出した局面からするとS D-01と同時期に存在したと思われる。



S D-01検出状況

#### 掘立柱建物跡 (S B-01)

東西2間×南北2間の建物跡である。中央のピットをこの建物に関連したものとすると総柱の建物となり、さらに北へ伸びる可能性が出てくる。柱間距離は西側1.6+1.8m、南側1.8m等間、東側1.8+2.4m、北側1.9m等間を測る。ピット中の遺物は須恵器や土師器の細片であり時期がはっきりしないが、この遺構面を覆った第4～5層の遺物は古墳時代前期～後期に限定され、しかも完形のものや完形に近い状態に復元できるものが多数あるので、この建物は古墳時代後期の土石流により廃絶したものであろう。土石流は石の重なり具合からすると北西から南東の方向へ流れたと考えられる。



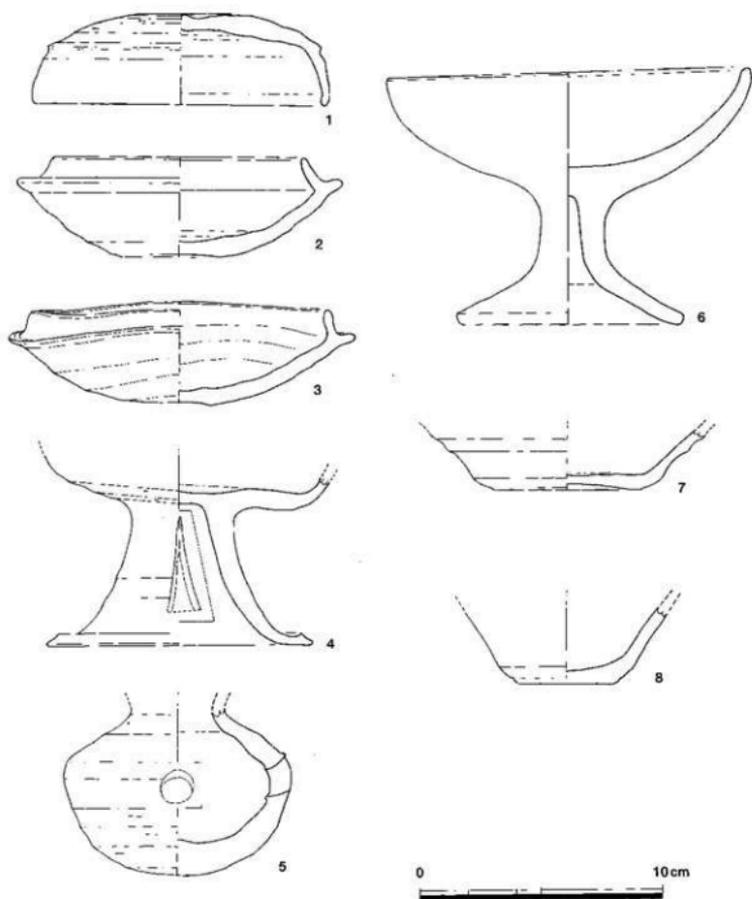
第118図 S B-01実測図



小竪穴状遺構検出状況

#### 小竪穴状遺構

東西2.2×2.4mの落ち込みの底にピットが2穴発見された。落ち込みはやや不整な円形を呈し、深さは中央部で約30cmある。ピットは西北部分の下端に沿っており、直径30cm、深さ40～50cmを測る。落ち込み内の堆積土から古墳時代前期の土師器片が出土している。



第119図 第1調査区出土遺物実測図



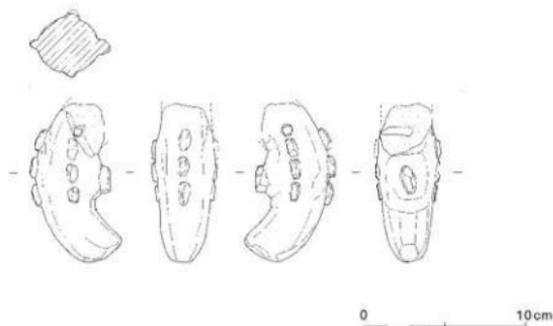
第1調査区遺物出土状況

#### 遺物について

- 第2層の遺物 近世の摺鉢片、土錘、不明鉄器、須恵器片、土師器片
- 第3層の遺物 土師質土器片、須恵器片、土師器片
- 第4～5層の遺物 古墳時代中～後期の須恵器（坏蓋、坏身、高坏提瓶、甕等）、土師器（高坏、椀、甕、瓶、壺等）古墳時代前期の土師器（甕、低胸坏等）
- 第6層の遺物 須恵器・土師器小片

#### 子持勾玉について

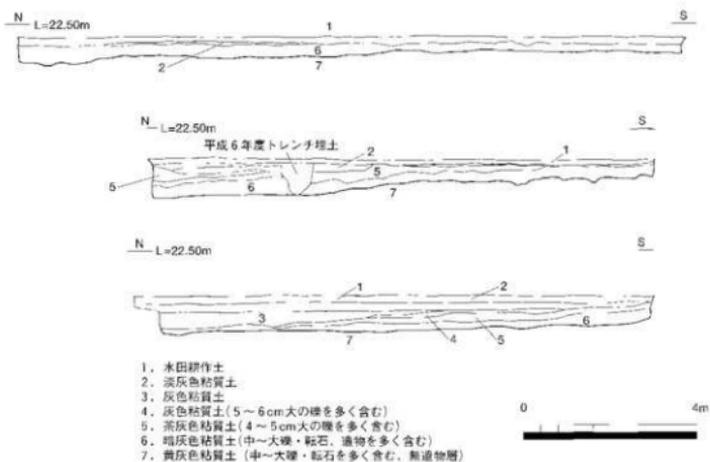
第1調査区北4m地点で出土した子持勾玉は、本体部は残存長10cm、最大幅4cm、厚さ3.7cm。胴部断面は円形で、頭部は欠損、尾部は僅かに平坦面をなす。穿孔は1箇所円形に穿っている。胴体の腹部に1個、背部に3個、側面に3個ずつの突起を有する。色調は淡褐色に暗青灰色の不整なしま模様である。石材は滑石と考えられる。



第120図 第1調査区出土子持勾玉実測図

#### 第2調査区

水田の坪ごとに北からT-2-1区、T-2-2区、T-2-3区として調査した。土層の堆積状況については第1層水田耕作土、第2層淡灰色粘質土、第3層灰色粘質土・遺物少量、第4層灰色粘質土（5～6cm大の礫を多く含む）・遺物少量、第5層茶灰色粘質土（4～5cm大の礫を少量含む）・遺物少量、第6層暗灰色粘質土（中～大礫・転石を多く含む）・遺物多量、第7層黄灰色粘質土（中～大礫・転石を多く含む）・遺物なしである。T-2-1区では第2層の下に第6層があり、T-2-2区では第2層の下には第5層が堆積していた。第3と第4層はT-2-3区にだけ見られた。



第121図 第2調査区土層断面図



T-2-2 完掘状況



T-2-3 完掘状況

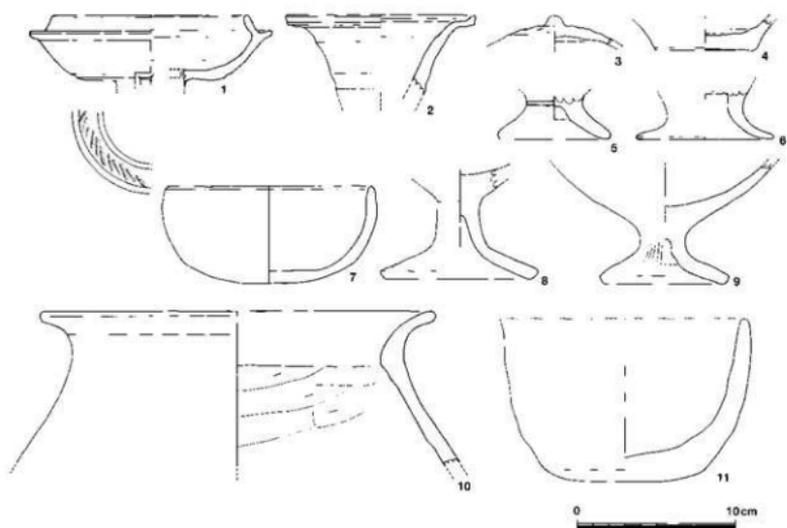


T-2-2 遺物出土状況

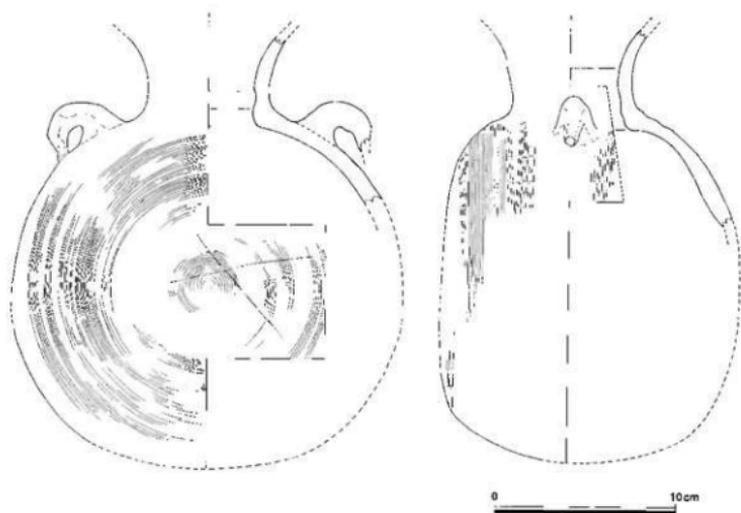
#### 遺物について

ほとんどの遺物はT-2-2区とT-2-3区北端の第5~6層中から出土している。

弥生土器(中期の甕口縁部、後期の甕口縁部)土師器(古墳時代中~後期の埴、高坏、甕、甕等)須恵器(古墳時代後期の蓋坏類、提瓶、壺、甕、歴史時代の坏底部等)土師質土器(糸切りの底部片)



第122图 第2調査区出土遺物実測図 (I)



第123图 第2調査区出土遺物実測図 (II)

### 第3調査区

上層について

第1層 水田耕作土

第2層 淡灰色粘質土

第3層 黄茶色粘質土（小～中礫を多く含む）遺物多量

第4層 灰褐色粘質土（小～大礫を含む）遺物多量

第5層 灰橙色～橙色粘質土（礫を多く含む部分と全く含まない部分がある。）遺物なし

調査区の北半では第3層の直下が第5層であったが、南半では第4層が堆積していた。坪堀1、2は南半と同様の堆積状況であったが、坪堀3、4は第2層の直下は第5層になっていた。



第3調査区全景

遺構と遺物について

第5層上向で堅穴式住居跡3棟、掘立柱建物跡2棟が検出された。

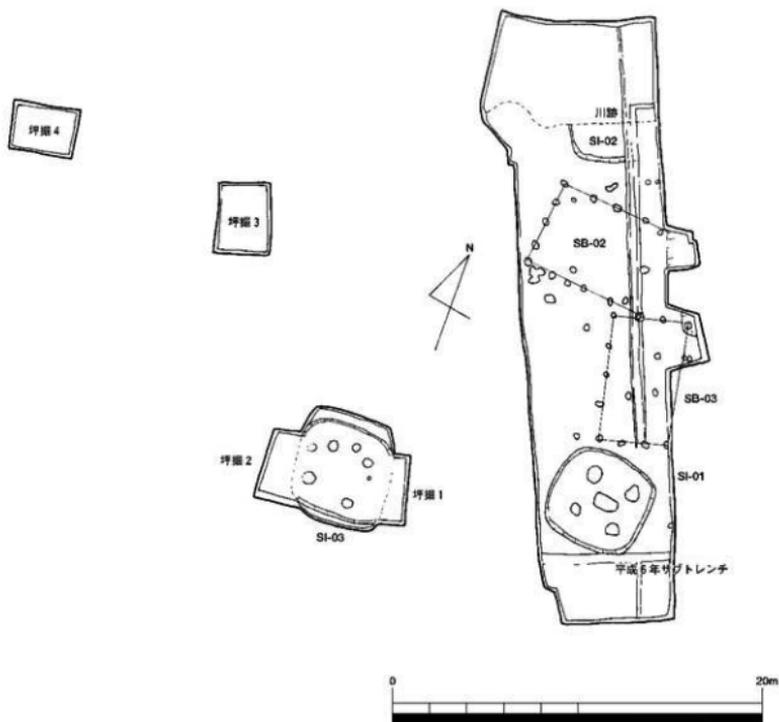
S1-01



S1-01検出状況

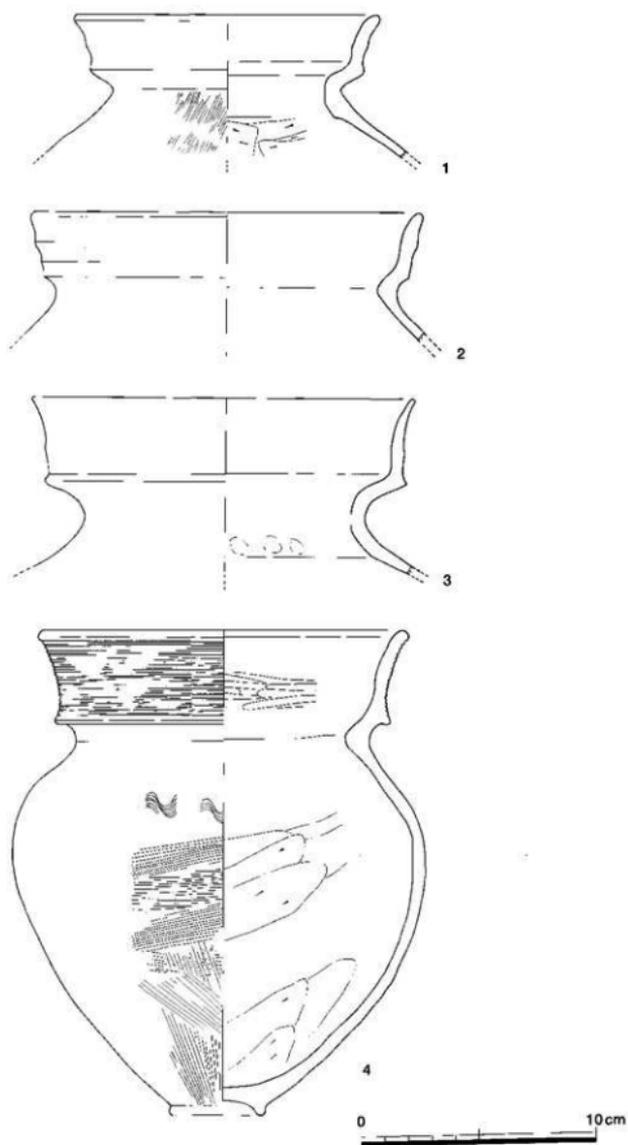


S1-01遺物出土状況

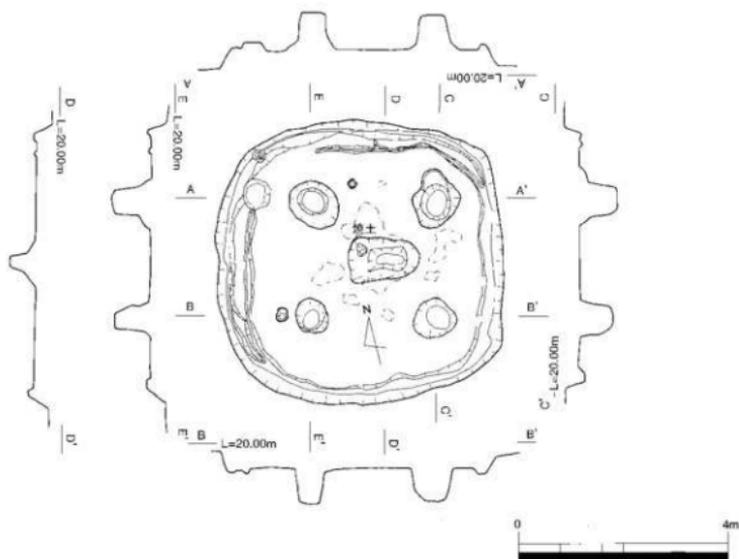


第124図 第3調査区平面図

平面形は円形に近い隅丸方形で、大きさは検出面で5.4×5.4mあり、深さは床面まで約30cmある。主柱穴は4本である。柱穴の掘り方は50～70cm、深さ60～70cmを測り、柱痕は直径20～25cmであった。中央部にはピットがあり、上端周辺が焼けて炭が広がっていた。周壁の直下には周溝が巡り、北と西では2条に別れている。西の隅の床面には複合I縁を持つ甕が2個伏せた状態で検出された。そのうち1個は完形を保ち、小さな凸をつけた底部を持つものである。床面には他に複合口縁の甕数個体が散在しており、また軽石が1個出土して注目される。これらの出土遺物により、この住居は弥生時代後期後半のものだと判断される。



第125図 S1-01出土遺物実測図



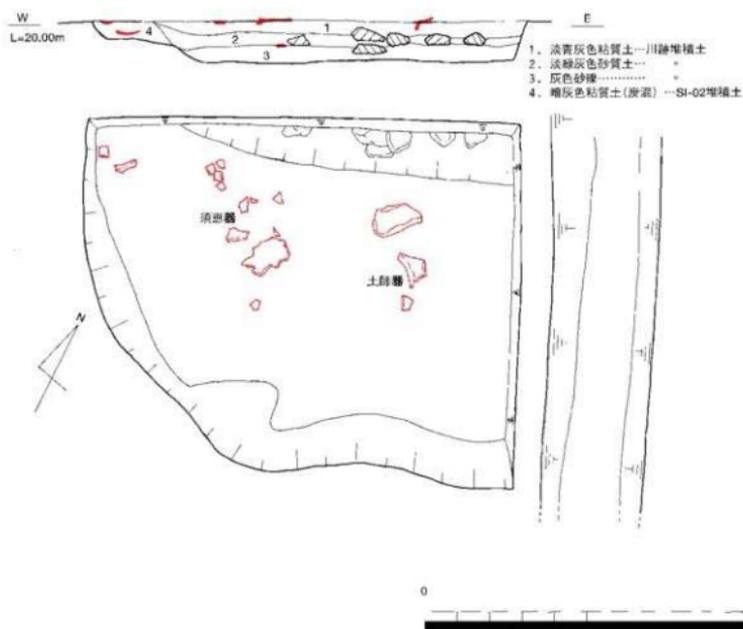
第126図 S I-01実測図



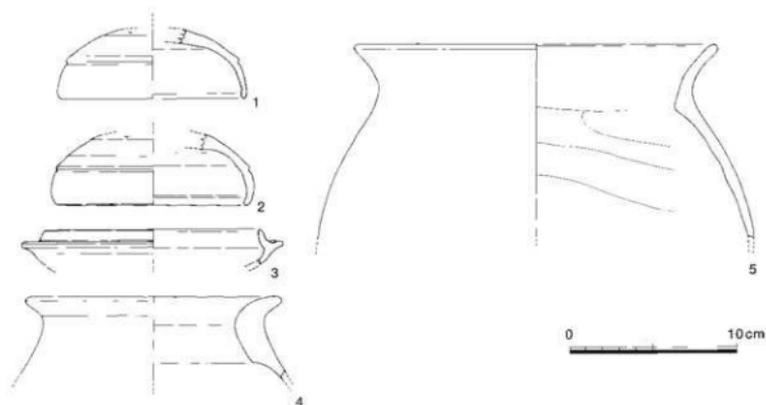
S I-02検出状況

#### S I-02

検出時の平面プランと検出面に多くの土器片が見られたことから、竪穴式住居跡と考え、調査を行った。東側部分についてはトレンチ調査を行った時点では平面プランに気づかず断面の観察で落ち込みを確認したものである。北側部分については川跡によって削り取られていた。残存部分は東西約3m、南北約2m、深さは10～20cmである。遺物は検出面付近に多く、古墳時代後期の須恵器（杯蓋類、甕片等）、土師器（甕、甕等）がある。柱穴は調査範囲では検出されなかったが、川で流された部分にあったかもしれないので、建物跡の可能性を考えた。



第127图 S I-02实测图



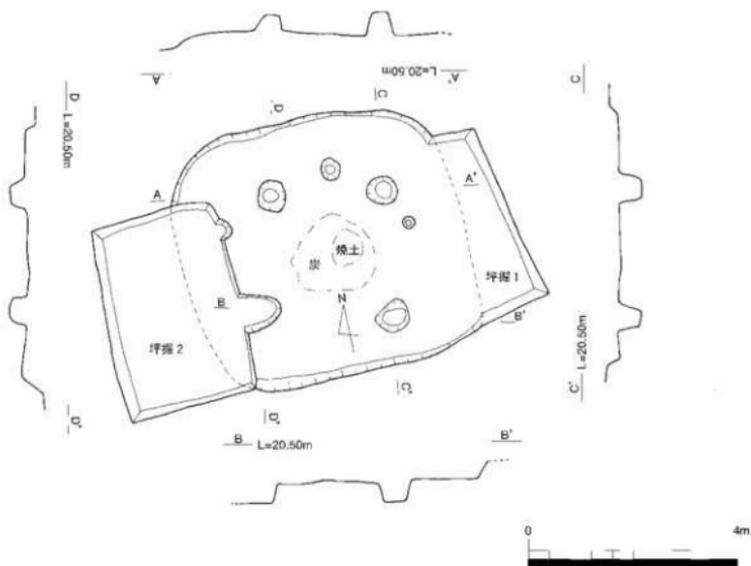
第128图 S I-02出土遺物实测图



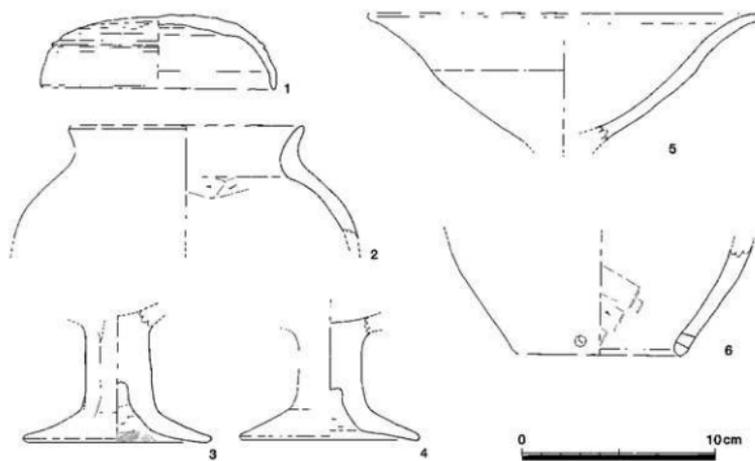
S I-03検出状況

S I-03

坪掘2の東壁に住居跡と思われる土層断面が見られたので拡張調査したものである。平面形は隅丸方形で、規模は南北5m、東西推定5.4m、深さ20~40cmを測る。主柱穴は4本あり、床面中央部にはよく焼けた焼土と炭が見られた。住居跡内部からは古墳時代後期の須恵器や土師器が出土しており、この時期のものであろう。



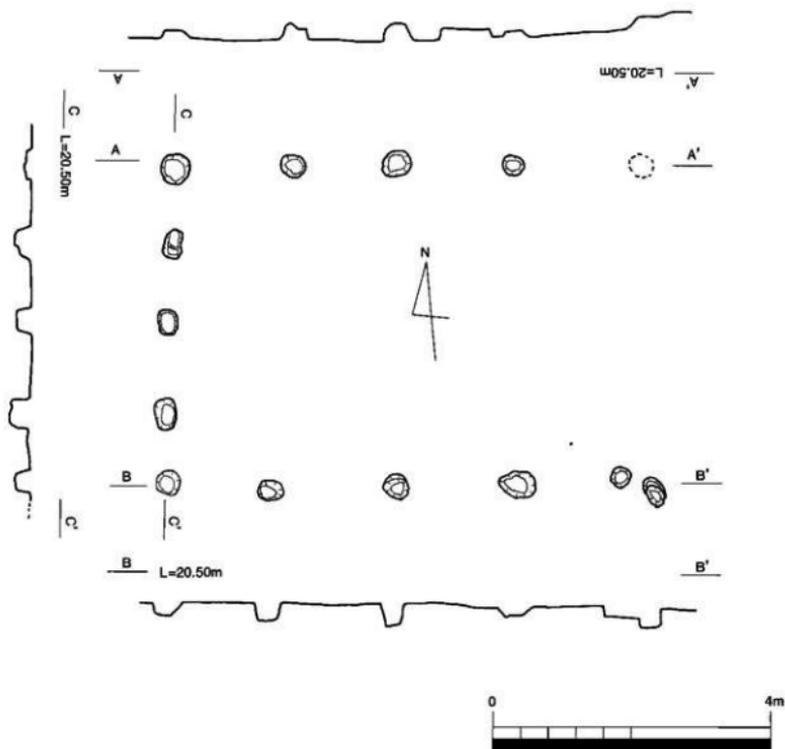
第129図 S I-03実測図



第130図 S I - 03出土遺物実測図

SB-02

東西4間（7m）または4間以上（東側する柱穴を検出しきれなかったため）、南北3間（4.5m）の東西に長い建物である。ピット中及び検出面の須恵器から古墳時代後期のものと考えられる。



第131図 SB-02実測図



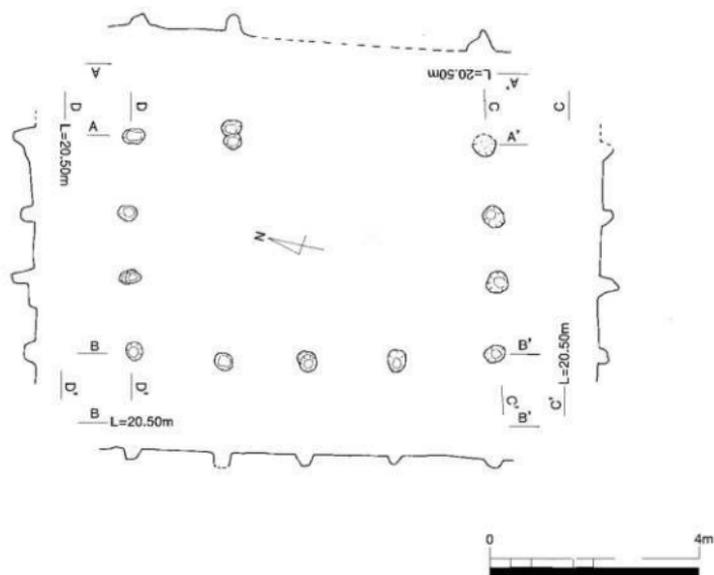
S B-02検出状況



S B-03検出状況

S B-03

東西3間(4m)×南北4間(7m)の南北に長い建物である。検出面の上器から古墳時代後期のものだと考えられる。



第132図 S B-03実測図

## 後期調査

現地調査期間……平成8年10月15日～12月24日

調査箇所……松江市上本庄町松ヶ根1587番地外

調査は14ヶ所にトレンチ（2×10mもしくは25×8m）を設定し行った。

10上区の西側（T-1・3・4・7～10）は大半が自然堆積層と考えられ、遺構は確認されず遺物は第1層～3層で数片出土した。東側（T-2・5・6・11～14）は土石流などと一緒の流れ込んできたと思われる遺物が多く出土したが、T-11を除いて遺構は確認されなかった。T-11では小穴（ピット）が検出されたが、詳細は不明である。



10工区全景



T-5 完掘状況



T-6 完掘状況

### 各トレンチの調査概要

T-1、2は土層が粘質土による自然堆積層で、礫はほとんど見られなかった。遺構は確認されず、遺物は土師器、須恵器、磁器などの細片が数片出土した。

T-3、4は小さな礫を含んだ層が見られた。遺構は確認されず、遺物は須恵器、土師器の細片が数片出土した。

T-5、6は河川（本庄川）の氾濫による土石流で流れ込んだと思われる大型の石が多数見られた。遺構は確認されなかったが、遺物は土師器、須恵器の細片は多く出土したが大半が摩滅しており土石流と一緒に流れ込んだものと思われる。

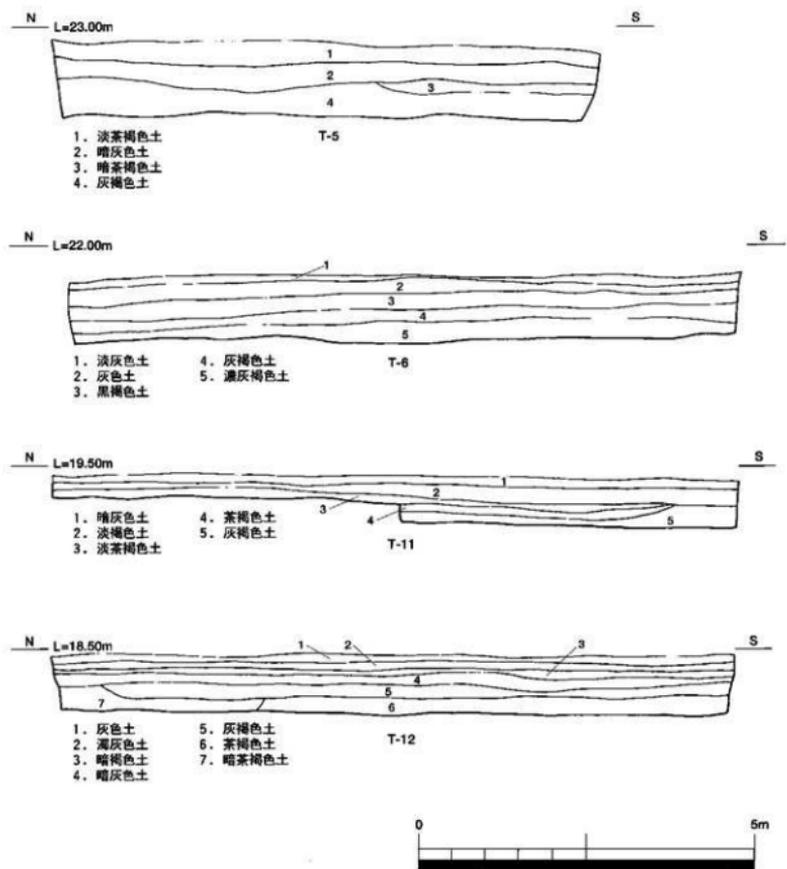
T-7はトレンチの付近に送電線用の鉄塔があり、建設時に掘り返され再び埋め戻されているため土層は攪乱されている。遺構は確認されず遺物は須恵器片が数片出土した。

T-8・9の付近は地主の話によると明治時代には直しをしたらしくその痕跡が見られた。小さな礫を含んだ層があり、中央でその層の上に粘質土が乗せて平坦な地形になっている。遺構は確認できず遺物は土師器片が数片と磁器片が出土した。

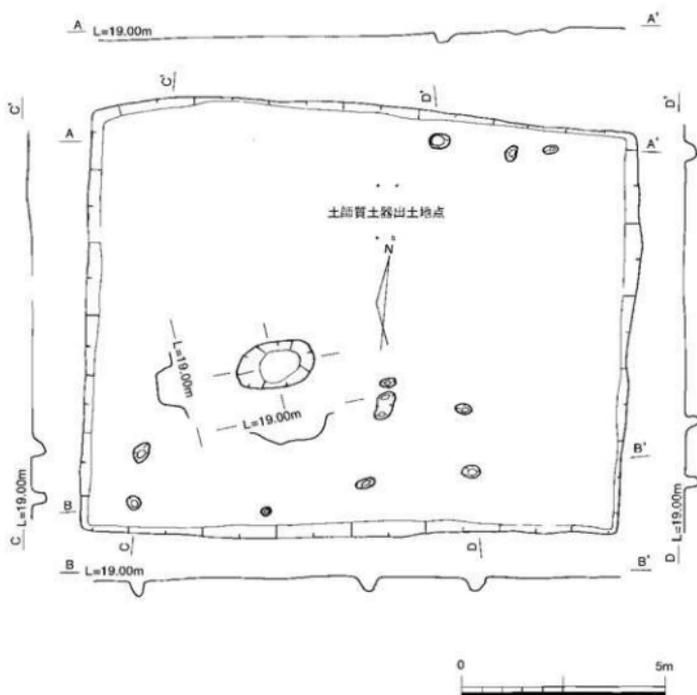
T-10は礫混じりの層が見られたが、遺構は確認されず遺物は須恵器片、陶器片が数片出土した。

T-11は10工区の南東側に位置し、扇状地の先端部と思われる。耕作土の下は小さな礫を多量に含んだ層が堆積し、層の上面に土師質土器がほぼ南北方

向に並んですべて口縁部を上に向けて数枚重ねた状態で出土した。また土師質土器の検出面からは鉄製品が出土した。この礫混入層からは土師器・須恵器・白磁などの細片が多量に出土した。遺構はこの礫混入層の下面からいくつかのピットを検出したが詳細は不明である。



第133図 10工区調査トレンチ土層断面図



第134図 T-11実測図



土師質土器出土状況



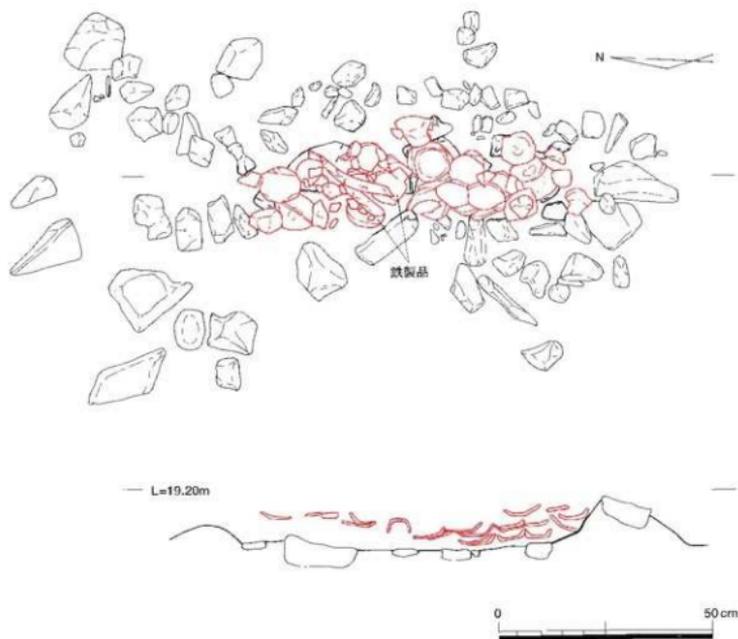
T-12発掘状況



鉄製品出土状況

T-12では遺構が確認されなかったが、第2層から第4層にかけて土師器や須恵器の細片など多くの遺物が出土している。

T-13・14では遺構が確認されず、遺物も土師器や須恵器の細片が数片出土した。

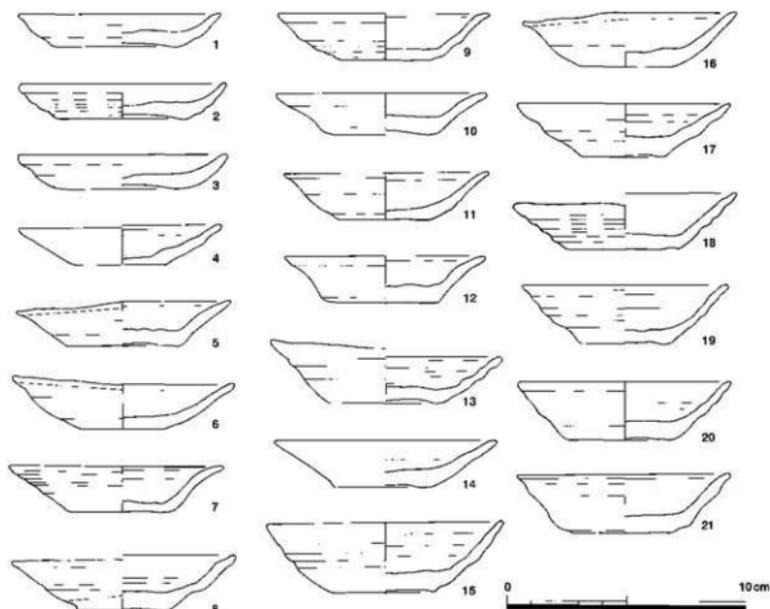


第135図 T-11遺物出土状況図

#### 遺構について

土師質土器は礫の上に置かれた状態で出土したが、この付近を精査した結果、礫は人為的に組み合わせられたものではなく、上砂とともに流入していた痕跡が見られたため自然に流れ込んでしまったものと思われる。以上のことから土師質土器は礫の中にある土を若干取り除いてやや掘り穿めた状態で置いたと考える。

また土師質土器を検出した層の下面からいくつかのピットが確認されたが、土師質土器とは検出した面が異なり、また礫混入層から出土した遺物には時期幅が見られるため土師質土器との関係は現在のところ不明である。土師質土器の出土状況から埋葬に使われたものではなく祭祀に使われたと考えられ、関係があるとするればその祭祀に関連した建物跡もしくは施設跡とも考えられる。しかし、この辺りの上層は非常に軟弱な礫混入層であり検出したピットも小規模のため、恒久的なものよりも一時的なものと考えられる。



第136図 T-11出土土師質土器実測図

#### 遺物について

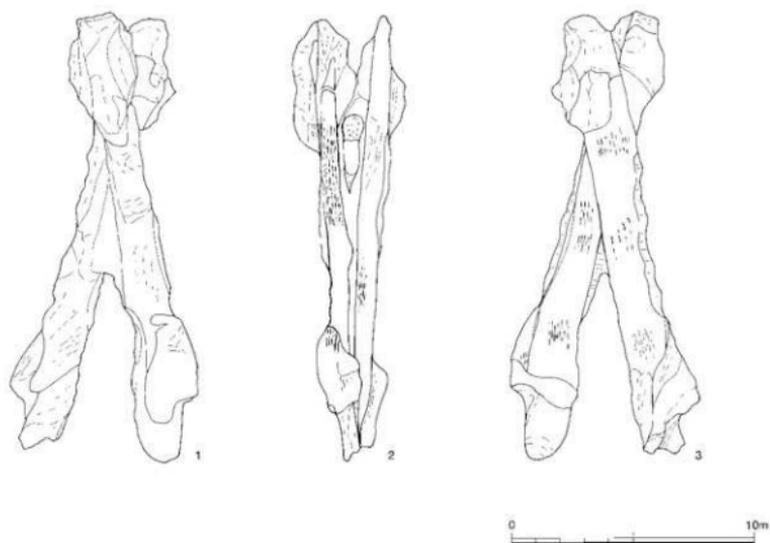
10区で出土した遺物は、全体的に時期幅がありその大半が摩滅しており流れ込んできたものと思われ、T-5・6・11・12以外は数片程度しか出土していない。ここでは代表的なものを取り上げてみた。

T-5から出土した飯は把手部分だが、この把手は煮し込みによって取りつけられており、古墳時代中期によく見られる技法の一つである。

T-11から出土した須恵器は同じ層から高坏、回転糸切り痕をもつ碗、皿類、高台付の皿などが出土しているが、かなりの時期幅が見られる。白磁は横山・森山両氏の出土陶磁器形式分類表の碗Ⅳ類に相当すると思われ、12世紀後半以降のものである。

土師質土器はすべて底部に回転糸切り痕が見られ、形態は碗形や皿型などさまざまである。11径は10cm前後と小型のものが大半であり、口縁部に油煙痕など灯明皿として使った痕跡が見られないことから供膳具として使用したと思われる、形態から12～13世紀のものと思われる。また同地点から出土した鉄製品は形状から刀子もしくは小刀の類と思われる。

T-12から出土した施軸皿は内面にのみ軸が施されており、また焼成時と思われる砂目積みの跡が内面に見られる。



第137圖 T-11出土鉄製品実測図



T-11出土鉄製品

平成9（1997）年度

現地調査期間……平成9年5月6日～7月31日

調査箇所……松江市上本庄町字荒船1995 1番地外

本調査地内に、10×2mの規模を基本とする、9本のトレンチを設定して遺跡、遺構の有無の確認調査を実施した。



12工区全景

T-1～4は同じ谷の水田に設定し、T-1が谷の奥面にまたT-4が谷の入り口面に位置する。

T-1・2について

双方ともに、耕作土（表土）の下は砂礫層（地山）であり、遺構は検出できなかった。遺物も出土しなかった。



T-1完掘状況



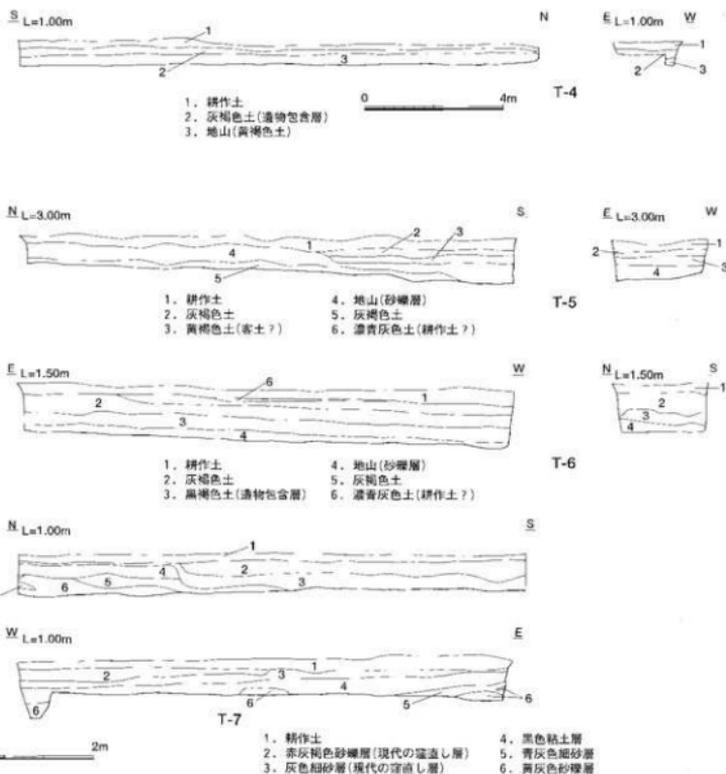
T-2完掘状況

T-3について

耕作土（表土）の下には灰褐色土、黒褐色土が堆積しており、その下に砂礫層（地山）が認められた。遺構、遺物は検出されなかった。

T-4について

耕作土（表土）の下に遺物を含む厚さ約16cmの灰褐色土があり、その下に黄褐色土（地山）が認められた。遺構は検出できなかった。遺物は、古墳時代後期と思われる須臾器の壺片が1片ほど出土した。



第138図 平成9年度調査トレンチ土層断面図



T-3 完掘状況



T-4 完掘状況

T-5・6は、T-1～4とは別の谷の水田に設定し、T-5が谷の奥側に、またT-6が谷の入口側に位置する。

#### T-5について

耕作土（表土）の下に遺物を含む厚さ約30cmの暗褐色土が堆積しており、その下に砂礫層（地山）が認められた。このトレンチの南側半分では表土と暗褐色土の間に灰褐色土と黄褐色土が認められたが、この堆積状況などから後世に客上されたものと判断できた。しかし、遺構は検出されなかった。遺物は須恵器が計8片程出土しており、坏、皿、甕、甕などの器種が認められた。これらは、口縁部の形態的特徴や底部回転糸切りという技法的特徴から、8世紀中頃～9世紀前半と思われる。

#### T-6について

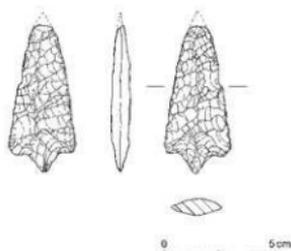
耕作土（表土）の下に灰褐色土が堆積し、その下に遺物を含む厚さ約30cmの黒褐色土があり、地山の砂礫層へと続く。遺構は検出されなかったが、遺物は多種にわたって検出されておりその中心の時期は概ね8世紀中頃～9世紀前半になるとと思われる。この中で最も古く遡るものとしては、縄文時代草創期と思われる安山岩質の有舌尖頭器や縄文土器片が認められ、また弥生時代末期の「草田4式～6式」とと思われる壺片が2～3片ほど出土した。それ以後では、古墳時代～9世紀前半の須恵器、中世の亀山焼系の壺片、中世末期と思われる瓦片、近世以降の陶磁器などが多く出土した。この他には、砥石及びその可能性が認められるものが5個ほど出土した。



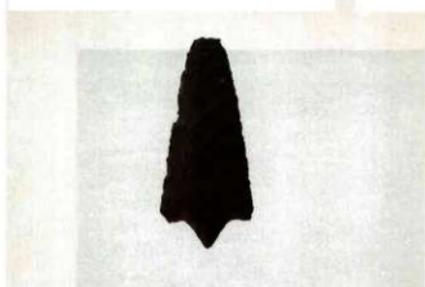
T-5完掘状況



T-6完掘状況



第139図 T-5出土有舌尖頭器実測図



T-5出土有舌尖頭器

#### T-7について

T-7は、T-1～4が位置する谷とT-5・6が位置する谷の合流地点である。この付近が周囲より一段高いことから何らかの遺構が存在する可能性が高いと思われた。しかし調査の結果、耕作土（表土）の下に黒色粘土層を削平する状態で、昭和30年代の耕地整理の「窪直し跡」である砂礫層が認められたが、遺構は検出されなかった。また黒色粘土層の下には細砂層、砂礫層が認められた。遺物は、窪直し層の砂礫層から現代のビニール紐と共に凹石、黒曜石片、現代陶磁器片などが計5個出土した。

#### T-8について

耕作土（表土）の下に灰褐色土が堆積し、その下に砂礫層（地山）が認められた。遺構・遺物ともなかった。



T-7 完掘状況



T-8 完掘状況

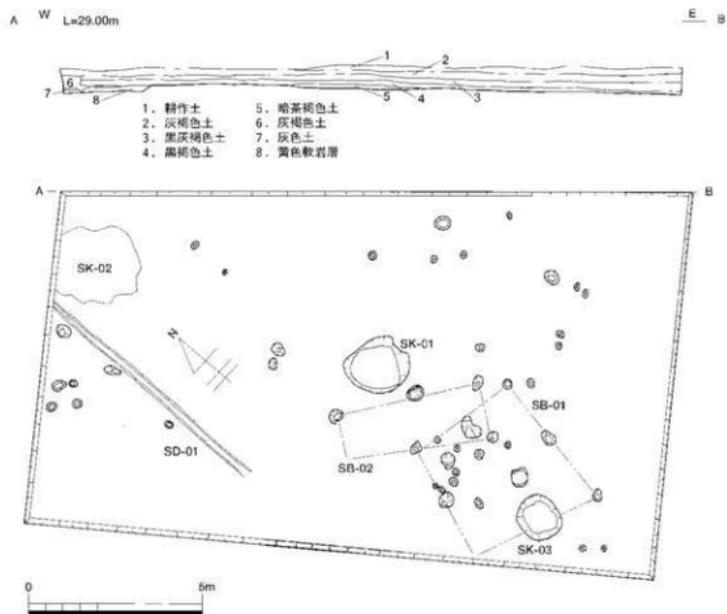


T-9 完掘状況

#### T-9について

T-9は調査区西側の周囲より一段高い水田地に位置しており、何らかの遺構が存在する可能性が高いと思われた。調査の結果、地山である黄色軟岩河面で掘立柱建物跡2棟、土壇状遺構が2基、柱穴と思われる（小穴）が十数穴検出できた。

層序としては、耕作土（表土）の下に灰褐色土、黒灰褐色土、黒褐色土、暗茶褐色土が堆積し、その下に地山が認められた。



第140図 T-9実測図



S B-01検出状況



S B-02検出状況

S B-01は2×2間の掘立柱建物跡で、柱間寸法は南北で2.0~2.2mを測り、東西で1.6~1.7mを測る。またS B-02は2×1間の東西棟の掘立柱建物跡で、柱間寸法は東西で1.9~2.3mを測り、南北で1.7mを測る。この2棟の建物跡の柱穴中から出土した遺物で最下限の時期を示すものは10世紀前半頃と思われる坏底部片である。



S K-01検出状況



S K-03検出状況

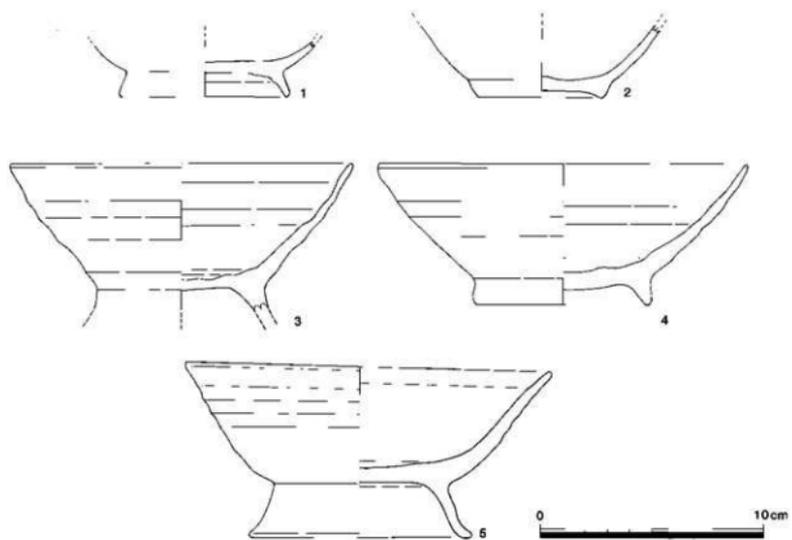
### S K-01

S K-01は楕円形の平面形を呈し、径1.6～1.8m、深さ1.3m以上を測るもので、検出面より約20cm下までは暗茶褐色上が入り込んでおり、非常に埋土が堅かった。その下には11世紀代と思われる高台付の坏を含む灰褐色上がかなりの厚さで堆積していた。約1.0m下からは大小の礫が確認されると共に湧水が激しくなり1.3mから下には掘り下げられず、床面は検出できなかった。しかしピンポールで深さを確認したところ、それより下方に更に1.2m以上下がることが分かった。

### S K-03

S K-03は円形の平面形を呈し、径1.2～1.3m、深さ30cmを測る。この土城内から礫及び遺物が出土した。遺物の中で最下限の時期を示すものは10世紀前半頃と思われる坏底部片である。

S K-02は調査当初遺構と思われたが、底の凹面が著しく埋土の土層堆積状況も整然とせず出土遺物も僅かであった。これらのことより、この土城は遺構ではなく風倒木痕と思われる。また、S D-01は埋土が耕作土と同じであることより木田耕作作用の暗渠と思われる。



第141図 S K -01出土遺物実測図

## 梨子谷遺跡

現地調査期間……平成9年8月13日～10月1日

調査箇所……松江市上本庄町字梨子谷964-2番地外3筆

平成8年度に14工区についてはトレンチ8箇所による試掘調査を実施したが、堆積上中から摩滅した土師器の細片5片が検出されたものの、遺物包含層と判断できるものではなく、また遺構面も検出されなかったことから、工事区域内に遺跡の存在は無いものと判断した。

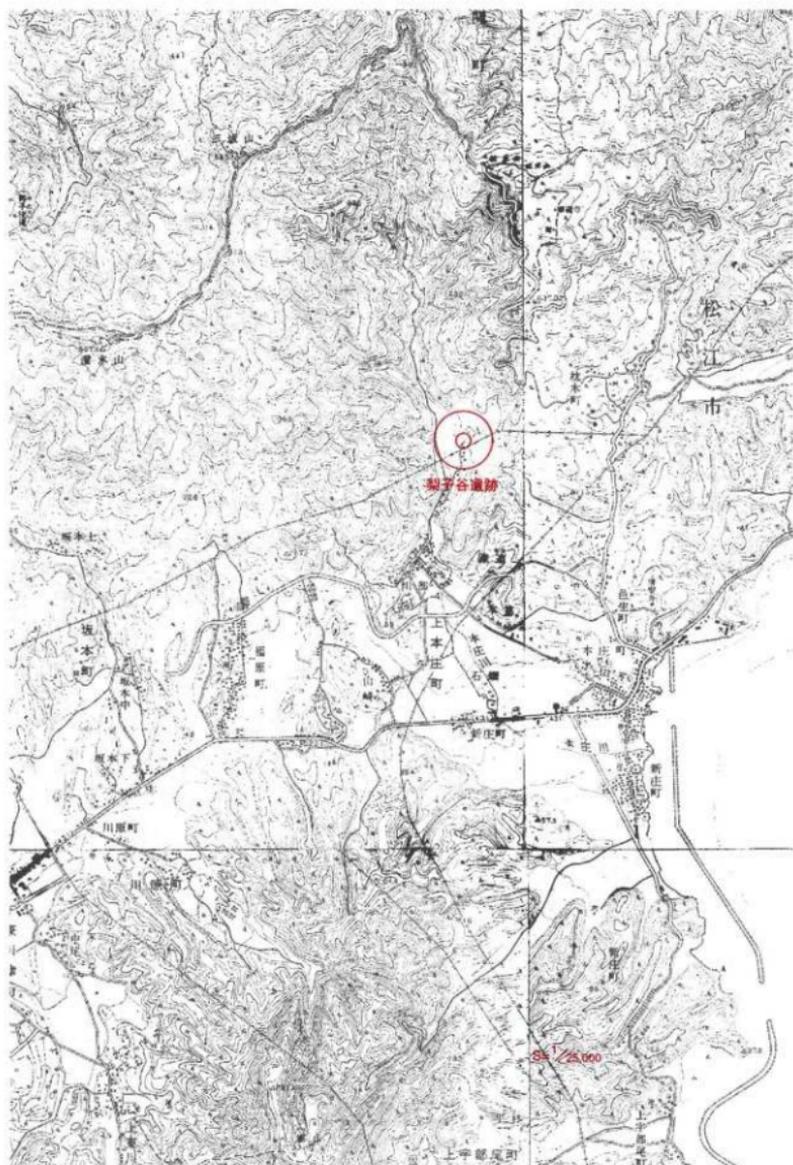
その後平成9年度の工事に際して、工事施工業者から工事中に土器片を発見したとの連絡を受け、現地へ赴いたところ東側丘陵裾部分で耕作土の下層より須恵器、土師器の散布が見られ、一部地山面の露出している部分では溝状のプランが見られた。この時点での工事の進捗状況は、既に切土工及び盛土工をはは終えており、旧地形を留めていなかった。

地山面が露出していた区域を精査した結果、3条の溝状遺構のプランが検出された。S D-01は長さ7.5m、幅60cm、S D-02は長さ2.6m、幅30cm、S D-03は長さ3.0m、幅30～80cmをそれぞれ測る。この内S D-01、02は暗灰褐色粘質土、S D-03は暗茶褐色の埋土が見られた。なお、地山面での遺物は検出されなかった。

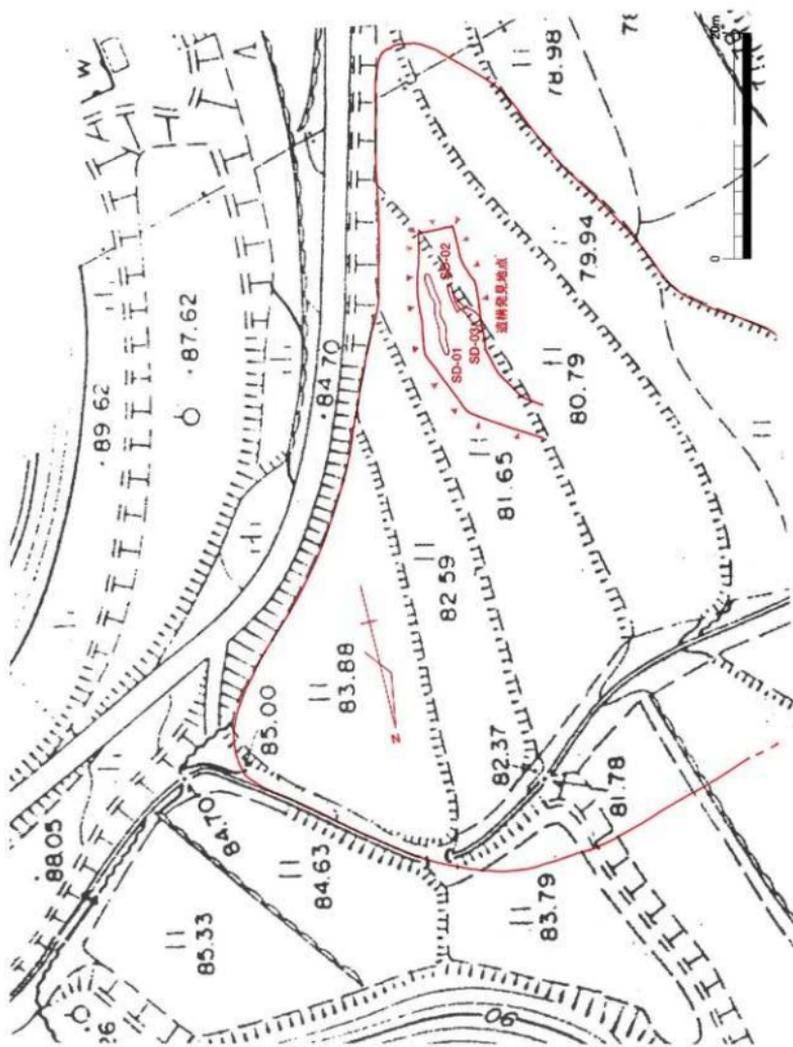
水路設置場所での断面調査の結果は、B・C地点間で遺物包含層が認められ、B地点より東方～本庄川に至る区域では認められなかった。断面調査及び工事に採集された遺物は古墳時代後期～奈良時代にかけての須恵器、土師器が大部分で、平安時代以降と思われる土師質土器片が若干混在している状況であった。また、地山面は東端丘陵裾部で見られるのみであった。



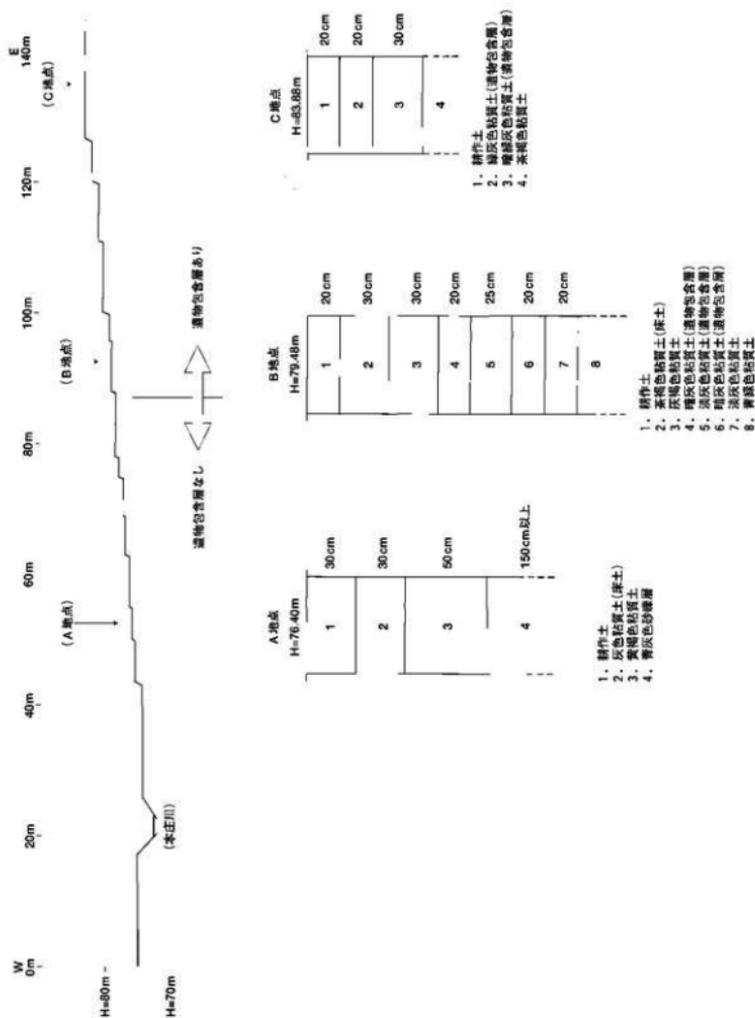
14工区全景



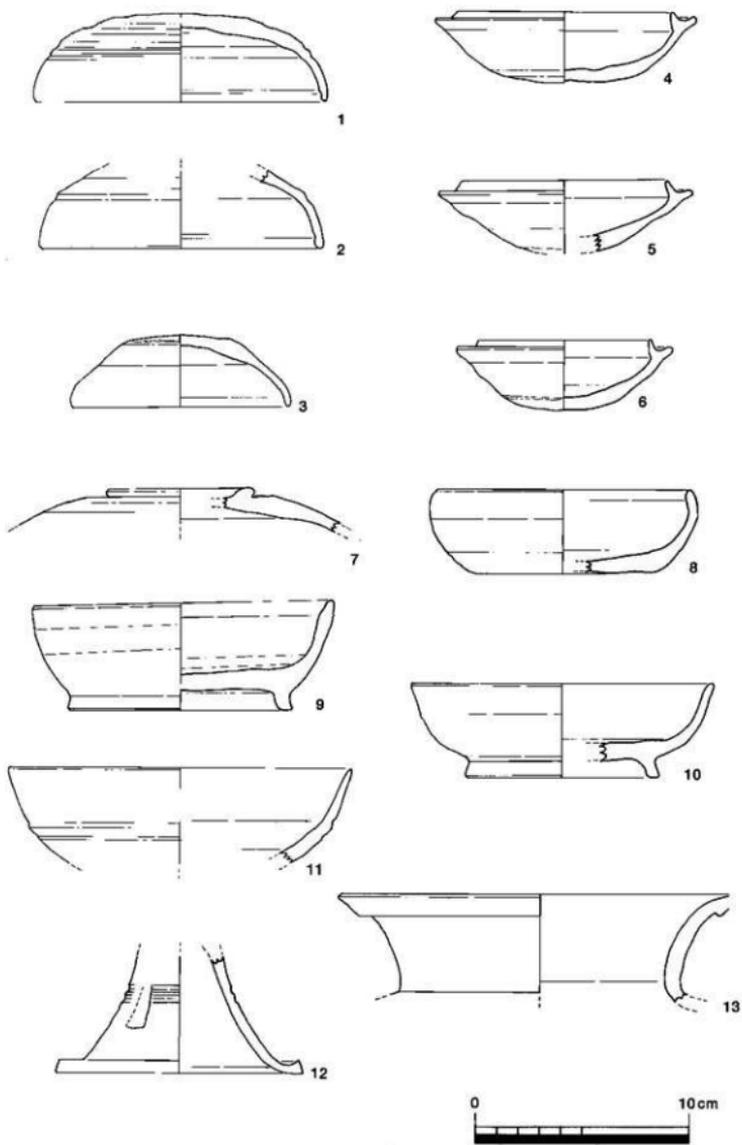
第142図 梨子谷遺跡位置図



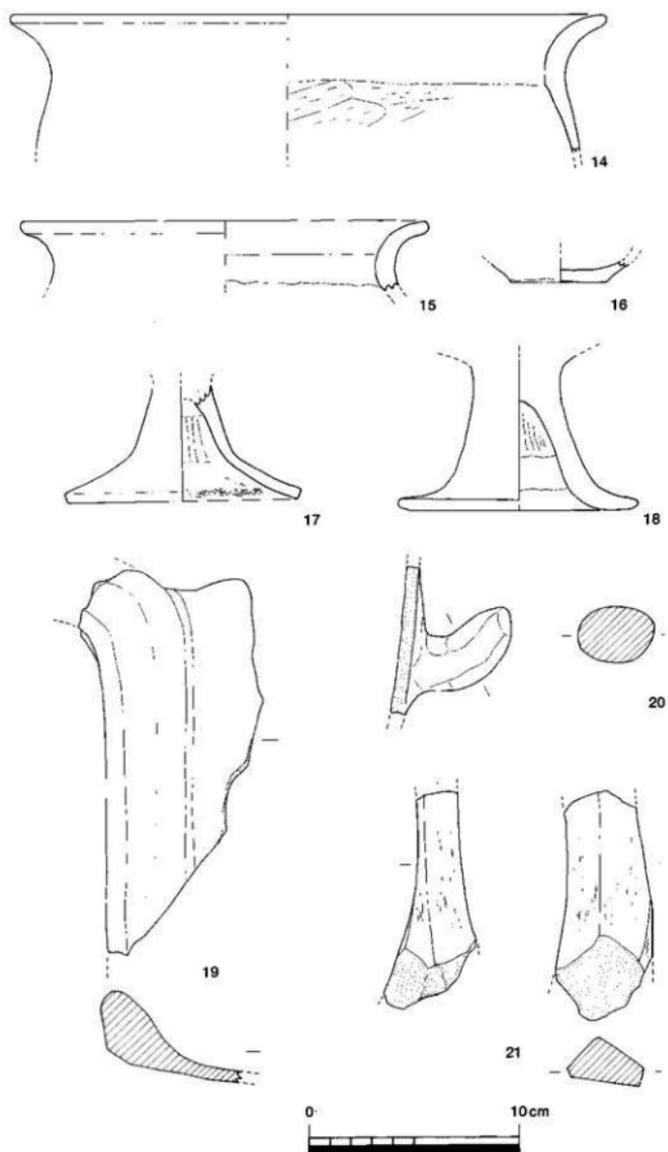
第143圖 溝状邊構 (SD-01・02・03) 平面圖



第144図 梨小谷遺跡調査トレンチ土層断面図



第145图 梨小谷遺跡出土遺物実測図(1)



第146図 梨小谷遺跡出土遺物実測図(Ⅱ)

## Ⅳ. 結 び

松江北東部遺跡東側については昭和61～63年度の調査で、竪穴住居跡、柱穴、土壇、溝状遺構、地山加工段を検出したが、竪穴式住居跡以外は伴出する遺物が無かったことから、時期・性格を言及することはできなかった。出土遺物についても細片で摩滅したものが多く、時期を確定するには至らなかった。

的場遺跡は平成元年度に南側の全面調査及び北側の試掘調査を実施した。その結果、的場丘陵西側で弥生時代後期と古墳時代の竪穴式住居跡をそれぞれ1棟ずつ、古墳2基を確認し、弥生時代～古墳時代にかけての生活を偲ばせる。東側で11棟の掘立柱建物跡、土壇1、性格不明遺構の土壇6、井戸1、溝状遺構2、小鍛冶跡1がそれぞれ確認された。掘立柱建物跡に付いては住居及び倉庫として利用されたものとする。重複して検出されることから、中～近世にかけての長い期間の生活を伺わせる。平成2年度は平成元年度調査区北側を調査した。その結果、弥生時代～中世にかけての遺構が検出された。弥生時代において的場丘陵は生活空間として利用されていたことが判明した。しかし、検出された住居跡は合計3棟のみであり、集落を形成していたとは考えにくく、どのような性格の生活空間であったのかは不明である。古墳時代においても生活空間として利用されているが、住居跡は1棟のみであり、この時代に古墳が1基築造されていることから、むしろ基地としての空間として利用されていたと考えられる。的場丘陵の古墳群は概ね5世紀末頃である。ところで、本庄平野の北、西方をとりまく低丘陵上のほとんどには方墳を中心とした古墳群が展開しており、そのうち石室が確認されている古墳が少なくない。これらの古墳群と比較して的場古墳群は更に低いほぼ平地に近い丘陵上に立地しており、この違いが時期的なものか、あるいは階級などの規制によるものかは興味深いところである。中世にはいると的場古墳群はすべてが削平され、掘立柱の建物が建てられるようになり、再び生活の空間として利用されるようになる。掘立柱建物跡には庇のつくものが多く、しかも規模が大きいため肥沃な本庄平野を背景として君臨した豪農または豪族の居館があった可能性も考えられる。

的場丘陵北側の3工区では試掘調査の結果、旧河川状遺構及び木製品が検出されている。

松江北東部遺跡の西側11工区については平成2、3年度に調査を実施したが、遺物の出土状況が西側水田に比較的多く偏っており、西側丘陵上に存在した何らかの遺構が消滅した際に、遺物が流れ込んだものと考えられる。

京殿遺跡は平成3、4、5年度に調査を実施した。その結果、本庄川流域に沿って9工区ほぼ全域にわたっていることと、遺構を伴わない遺物散布地であることが判明した。遺物は6～8世紀を中心とした須恵器片、土師器片が無数に出土しているが、その一方で、祭祀用に使われたと考えられる土馬、手捏土器も出土している。遺物の大半が摩滅した細片で砂礫層上層から出土していることと、9工区が山裾の扇状地であることから推定すると京殿遺跡は本庄川の氾濫で二次的に堆積したものである。出土遺物の中に丹塗土師器片、硯片を含んでいることから寺院、官衙に関連があった可能性も考えられる。中西3号墳については周溝が検出されず、古墳とは断定できないが、付近に古墳が多

いことから9Ⅰ区西側の丘陵地は、古墳時代の墓域として利用されていたものと考えられる。

松江北東部遺跡ほぼ中央の7、8Ⅰ区については平成5～8年度において調査を実施した。7Ⅰ区については検出された建物跡とその上を覆った土石流との遺物の関係は、大規模な土石流によって当時の生活が一瞬のうちに失われてしまった状況をよく伝えており、古墳時代後期のある時期に相当な天変地異があったことをしめしているものと思われる。本庄川の度重なる氾濫によって土石流と小さい浸食とが繰り返されており、礫を含む層の上に粘土層が被り、その上にまた礫を含む層の上に粘土層が被り、その上にまた礫を含む層が被るという堆積状況が断面でよくわかる。弥生～中世頃の遺物が混在しているので各時代の住居跡や古墳などが流されて堆積したものであろう。検出された竪穴式住居跡3棟、掘立て柱建物跡2棟は、SI-01と他の遺構とは明らかに時期の違うものであるが、検出面は同じであり、これは掘立柱建物跡が建てられるとき弥生時代の遺構面の上部が削平されたことによるものか。また、SB-02と03は近接しており、建物の方向もやや違っているので、同じ古墳時代後期の中でも時期差のある建物と考えられる。第3調査区一帯は原ノ後遺跡として周知された場所であり、須臾器、土師器などが多く表面採集されることで知られていた。建物跡が検出されたことが遺跡の性格を解明することに繋がった。8Ⅰ区は弥生時代中期～古墳時代の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。このことは本庄川の氾濫による影響を受けたものと思われる。10Ⅰ区については、平成元、8年度に調査を実施したが、条里制を示すものや集落の痕跡を示す遺構は確認されなかったが、遺物の上出状況から本庄地区の集落は度重なる本庄川の氾濫によって何度も土砂が埋まり、埋まった土砂の上に再び集落を形成した形跡がある。集落の境界は10Ⅰ区よりも東側にあったと推測される。

荒船遺跡については平成9年度に調査を実施したが、遺構としては掘立柱建物跡2棟、土壇状遺構2、柱穴十数穴確認された。2棟の掘立柱建物跡とSK-03は出土遺物により同時期の10世紀前半頃の遺構であり、両者の関係はかなり密接であると考えられる。しかし、2棟は重複しており時間的に前後関係があると思われるが、詳細なことは不明であった。検出された建物跡の付近は湧水が非常に激しく日常生活には適さず、また建物跡の規模などから検討すると住居ではなく、簡単な作業棟の可能性が高いものと思われる。日常生活のための住居は本トレンチ上方向向きの緩斜面(調査予定地外)に存在したのではないかとと思われる。また、SK-01はその規模や残存状況から井戸の可能性もあり、11世紀に廃棄され、後世に整地されたと考えられる。

梨子谷遺跡については平成9年度に調査を実施し、遺物は厚く堆積している流入土中からの出土であることから、遺物散布地であると考えられる。検出された遺構については、性格は不明であるが、周辺一帯で採集された土器類の組成から推測して、集落に関連するものと思われる。

昭和61年度出土遺物観察表

探出番号	品 種	法量 (cm)	出 土	産 地	色 澤	手 法・測 量 の 特 徴	出土地点
第30081	須恵器：甕		甕	良好	外側：青灰色 内側：黄褐色	内外面共に滑らか。内口は同心円状。	T-1
第30082	須恵器：甕		甕	良好	外側：青灰色 内側：黄褐色	平底のため調整は不明。	T-1
第30083	陶磁器：高台付鉢	断面直径：5.4		良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内外両面に淡緑色を施す。	T-2
第30084	陶磁器：甕		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側に灰緑を施す。	T-2
第30085	陶磁器：甕鉢		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内外両面に平行ナズ。横前後。	T-2
第30086	陶磁器：甕鉢		甕で2.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内面に灰緑を施す。横前後。	T-3
第30087	土師質土器：甕	断面直径：3.9 断面直径：2.0 高：1.3	甕	良好	外側：黄褐色 内側：黄褐色	内外両面に平行ナズ。底部は同心円状。	T-3
第30088	須恵器：外甕		甕	良好	外側：黄褐色 内側：黄褐色	内外両面に平行ナズ。	T-3
第30089	石器：石鏝				良好	断面状。	T-3
第30090	陶磁器：甕鉢	断面直径：1.6	甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	体部の外側に1回輪ナズ。底部外側は斜削垂削り。横前後。	T-3
第30091	土師器：円筒埴輪		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内外両面にハケメ。	T-4
第30092	須恵器：外甕		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側は加粒ナズ。内面は不整方向ナズ。	T-4
第32291	土師器：甕	断面直径：13.3	甕で1.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側は加粒ナズ。内面は不明。	S1-01
第32292	土師器：高平	断面直径：36.0	甕で1.0mm程度の白色砂粒を多く含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側はタテヨリのハケメ及びヘクリガキ。内面にハケメナズ。	S1-02
第32293	土師器：高平		甕で1.5mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	S1-03
第32294	土師器：高平	断面直径：6.8	甕で2.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	S1-04
第32295	土師器：甕		甕で0.5mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	S1-05
第32296	土師器：甕		甕で0.5mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	S1-06

昭和62年度出土遺物観察表

探出番号	品 種	法量 (cm)	出 土	産 地	色 澤	手 法・測 量 の 特 徴	出土地点
第32801	陶磁器：甕	断面直径：36.0	甕で1.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内外両面に淡緑色を施す。	T-2
第32802	石器：石片				良好	断面状。	T-3
第32803	土師質土器：甕	断面直径：9.4		良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	底部は斜削垂削り。	T-6
第32804	須恵器：高台付鉢	断面直径：10.0	甕で0.5mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内外両面に淡緑ナズ。	T-8

昭和63年度出土遺物観察表

探出番号	品 種	法量 (cm)	出 土	産 地	色 澤	手 法・測 量 の 特 徴	出土地点
第34081	土師器：高平		甕で0.5mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	1回輪は内径可測。	T-2
第34082	陶磁器：高台付鉢	断面直径：5.1	甕で1.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：淡緑色 内側：淡緑色	内面に淡緑色を施す。	T-7
第34083	陶磁器：高台付鉢	断面直径：4.9	甕で1.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：淡緑色 内側：淡緑色	内面に淡緑色を施す。中央部は同心円状。	T-7
第34084	土師質土器：甕	断面直径：5.6	甕で2.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	T-8
第34085	陶磁器：高台付鉢		甕で0.5mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	淡緑色を施す。	T-9
第34086	陶磁器：甕鉢		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内面に滑らかな面あり。	T-11
第34087	陶磁器：甕鉢		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	T-11
第34088	須恵器：甕		甕で1.0mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側に1回輪ナズ。外面に2本の段輪。段状あり。	G-1
第34089	土師器：円筒埴輪		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内外両面にハケメ。	G-8
第34090	須恵器：甕		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側に格子状の叩き痕あり。	G-8
第34091	土師質土器：甕	断面直径：20.4	甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色		G-9
第34092	須恵器：甕		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側に格子状の叩き痕あり。	G-12
第34103	陶磁器：甕		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内面中央部及び高台部を黄褐色の物を施す。	G-14
第34104	土師器：円筒埴輪		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	G-14
第34095	須恵器：外甕	断面直径：15.2	甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色		G-17
第34096	須恵器：甕		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	外側に淡緑色の文様が施されている。	G-18
第34097	須恵器：外甕	断面直径：6.8	甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色		G-21
第34098	陶磁器：甕鉢		甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内面に溝4条あり。横前後。	G-21
第34099	土師器：土鏝	全 長：3.0	甕	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色		G-21
第34090	須恵器：土鏝		甕で0.5mm程度の白色砂粒を多く含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	内外両面にハケメナズ。外側に3本の段輪を施す。	G-22
第34091	須恵器：土鏝		甕で1.0mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外側：黄褐色 内側：赤褐色	平底のため調整は不明。	G-22

調査番号	器 種	法長 (cm)	胎 土	装 束 色 調	子 漆・装束の特色	出土地点	
BS34020	陶磁器：漆	法長：径：30.4	密で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色	漆部はやや内径突出に開く。内面に漆り痕あり。	G-22
BS34021	陶磁器：漆			黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色	内外両面に黒刺ナナ。	G-22
BS34024	土師器：土師	全 長：3.6		黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色		G-22
BS34025	土師瓦土器：甕	規定口径：8.7 規定法長：1.4	密	黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色	浅部外壁に黒刺赤有り。	G-23
BS34026	土師瓦土器：甕	規定法長：4.1		黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色	浅部外壁に黒刺赤有り。	G-23
BS34027	土師器：土師	全 長：3.5		黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色	外面にナナ有り。	G-23
BS34028	陶磁器：漆			黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色	浅部外壁に黒刺赤有り。	G-26
BS34029	陶磁器：漆			黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色		浅部外壁に黒刺赤有り。
BS34030	土師瓦土器：土師	全 長：5.9		黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色		浅部外壁に黒刺赤有り。
BS34031	陶磁器：漆			黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色	外口に平角形の突出が取り付けてある。	浅部外壁に黒刺赤有り。
BS34032	土師器：土師	全 長：2.9	密で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	黒	外口：茶褐色 内口：茶褐色		浅部外壁に黒刺赤有り。

### 平成元年度出土遺物観察表

調査番号	器 種	法長 (cm)	胎 土	装 束 色 調	子 漆・装束の特色	出土地点	
BS6001	赤土式土器：甕	規定口径：20.2	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	やや赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	外壁はコナナテ、内面はコナナテ及びハケズリ。	S1-02
BS6002	赤土式土器：甕	規定口径：16.4	やや赤で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	外壁はコナナテ、内面はハケズリ。	S1-02
BS6003	土師器：土師	規定口径：11.7	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	やや赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	学識のための調査は不明。	地場1号墳
BS6004	土師器：土師	規定口径：12.4	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	学識のための調査は不明。内面にスエテテ。	地場1号墳
BS6005	土師器：土師	規定口径：8.0	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。	地場1号墳
BS6006	土師器：土師	規定口径：8.0	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。	地場1号墳
BS6007	土師器：土師	規定口径：16.9	密で2mm程度の砂粒を少量含む。	やや赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。外部外壁にハケム、内面はハケズリ。	遺跡B区 地場1号墳
BS6008	土師器：漆	規定口径：13.2	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。	遺跡B区 地場1号墳
BS6009	土師器：土師	規定口径：16.3	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	やや赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。外部外壁にハケム、内面はハケズリ。	遺跡B区 地場1号墳
BS6010	土師器：甕	規定口径：25.4	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。外部外壁にハケム、内面はハケズリ。	遺跡B区 地場1号墳
BS6011	土師器：甕	規定口径：13.9	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。外部外壁にハケム、内面はハケズリ。	遺跡B区 地場1号墳
BS6012	土師器：高杯	規定口径：23.6	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	やや赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にハケム。	遺跡B区 地場1号墳
BS6013	土師器：高杯	規定口径：21.7 規定法長：13.5 高：23.3	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	外壁はコナナテ及びヒギナ。内面はヒギナ及びヒギナ。	遺跡B区 地場1号墳
BS6014	土師器：高杯	規定口径：14.4	密で0.5mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	外壁はコナナテ及びヒギナ。内面はヒギナ及びヒギナ。	遺跡B区 地場1号墳
BS6015	赤土式土器：甕	規定口径：14.4	密で0.5mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	学識のための調査は不明。外壁に黒刺赤有り。	T-16
BS6016	土師器：高杯	規定口径：16.6	密で1mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	外壁はハケム。内面はハケム。ハケズリ面ハケム。	T-16
BS6017	土師器：土師	規定口径：20.2	密で0.5mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	外壁はコナナテ、内面はコナナテ及びハケズリ。	T-1
BS6018	土師器：甕	規定口径：14.2	密で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	赤	外口：淡褐色 内口：淡褐色	内外両面にコナナテ。外部外壁にハケム、内面はハケズリ。	S1-03 遺跡1区
BS6019	甕				外口：淡褐色 内口：淡褐色	両面磨した面があり、黒が一面あり。	S1-08
BS6020	輸入瓦					洋化瓦。	T-8
BS6021	土師器：土師	全 長：4.0 大 径：2.2	密で1mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色		T-8A
BS6022	土師器：土師	全 長：6.25 大 径：2.85	密で1mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	面あり。	E-3K
BS6023	土師器：土師	大 径：1.2	密で0.5mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	面あり。	E-3E
BS6024	赤土式土器：土師	大 径：1.9	密で1mm程度の砂粒を含む。	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色		F-4E
BS6025	赤土式土器：土師				外口：赤褐色 内口：赤褐色		R-3W

### 平成2年度出土遺物観察表

調査番号	器 種	法長 (cm)	胎 土	装 束 色 調	子 漆・装束の特色	出土地点	
BS8001	土師器：土師	規定口径：14.0 規定法長：9.0 高：30.3	密	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	学識のための調査は不明。	地場9号墳
BS8002	陶磁器：漆		密	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	外口全体に黒刺赤色を施されている。外口に7mmの凹みあり。	地場9号墳
BS8003	赤土式土器：甕		密で2mm程度の砂粒を少量含む。	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	学識のための調査は不明。	S1-03
BS8004	赤土式土器：甕		密で2mm程度の砂粒を少量含む。	赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	学識のための調査は不明。	S1-03
BS8005	陶磁器：漆	規定口径：11.5 高：2.7		赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	内外両面に黒刺赤ナナ。	S1-01
BS8006	陶磁器：漆	規定口径：8.0 高：12.0 大 径：6.1		赤	外口：赤褐色 内口：赤褐色	外部内外両面に黒刺赤ナナ。	S1-01



調査番号	品名	法量 (cm)	動	土	状態	色	手続・調査の特徴	出土地点
000017	瓶蓋部：木身	断面径：15.6 高：1.9	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面はヘラ取り痕あり。	9-A区	
000018	瓶蓋部：高台付杯	断面径：3.1 断面径：6.0 高：4.7	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-A区	
000019	瓶蓋部：蓋	断面径：20.6 高：3.6	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-A区	

### 平成3年度9-D区出土遺物観察表

調査番号	品名	法量 (cm)	動	土	状態	色	手続・調査の特徴	出土地点
000020	土師器：蓋	断面径：12.4	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	蓋縁が急しく調整は不明。	9-D区	
000022	埴輪器：蓋			良好	外側：黄褐色内側：黄褐色		9-D区	
000023	埴輪器：杯身	断面径：11.6 断面径：13.9 高：5.3	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000024	埴輪器：杯身	断面径：10.4 断面径：10.9 高：4.1	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	口縁部内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000025	埴輪器：蓋		容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	外壁に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000026	土師器：土師器：杯	断面径：6.4	容で0.1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	底部内外両面に同軸ナズあり。	9-D区	
000027	土師器：土師器：杯	断面径：7.2	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	底部内外両面に同軸ナズあり。	9-D区	
000028	土師器：土師器：杯	断面径：6.4	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	底部外面は同軸ナズあり。	9-D区	
000029	埴輪器：杯身	断面径：11.6 断面径：13.9 高：5.3	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000030	埴輪器：杯身	断面径：11.8 断面径：16.4 高：4.0	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000031	埴輪器：杯身	断面径：11.8 断面径：13.9 高：4.2	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000032	埴輪器：白陶器	断面径：11.8 断面径：13.9 高：3.3		良好	外側：灰白色内側：灰白色	洗い場をかける。	9-D区	
000033	土師器：埴	断面径：18.0 断面径：7.6 高：6.6	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000034	土師器：瓶蓋部	断面径：7.8	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	蓋縁が急しく調整は不明。黄色の土着。	9-D区	
000035	土師器：瓶蓋部	断面径：7.2	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	蓋縁が急しく調整は不明。	9-D区	
000036	埴輪器：有蓋杯	断面径：10.4 断面径：13.9 高：3.8	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	
000037	埴輪器：有蓋杯	断面径：7.8	容で2mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	9-D区	

### 平成4年度出土遺物観察表

調査番号	品名	法量 (cm)	動	土	状態	色	手続・調査の特徴	出土地点
000038	土師器：土師器	全長：3.2	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色		T-19 S-D-01	
000039	土師器：土師器	全長：4.2		良好	外側：黄褐色内側：黄褐色		T-16	
000040	埴輪器：土師器	全長：4.3	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色		T-11	
000041	埴輪器：杯身	断面径：12.8 高：4.1	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	H-3	
000042	埴輪器：杯身	断面径：16.8 高：4.1	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	H-12	
000043	埴輪器：杯身	断面径：16.8 高：3.9	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	F-10K	
000044	埴輪器：杯身	断面径：11.2 高：2.9	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	D-8区	
000045	埴輪器：杯身	断面径：13.4 高：2.9	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。底部外面は同軸ヘラ取り痕あり。	E-11区	
000046	土師器：土師器	断面径：16.6		良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	内外両面同軸ナズ。	F-12区	
000047	土師器：土師器	断面径：17.2		良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	内外両面同軸ナズ。	H-2区	
000048	埴輪器：埴輪器	断面径：9.4	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	内外両面同軸ナズ。	H-5区	
000049	埴輪器：埴輪器	断面径：9.4	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	内外両面同軸ナズ。	H-3区	
000050	土師器：土師器：高台付杯	断面径：6.4	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	内外両面同軸ナズ。	T-2新築区	
000051	土師器：土師器：高台付杯	断面径：5.4		やや不良	外側：黄褐色内側：黄褐色	外側に同軸ナズ。	E-12区	
000052	埴輪器：埴輪器：高台付杯	断面径：7.4	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	外側に同軸ナズ。	C-11区	
000053	埴輪器：埴輪器	断面径：7.6	容で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外側：黄褐色内側：黄褐色	同軸ナズ。調整の痕跡は急しく方向ナズ。	C-1区	
000054	埴輪器：埴輪器	断面径：13.2 断面径：13.1 高：6.7	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	やや不良	外側：黄褐色内側：黄褐色	1段内外両面に同軸ナズ。調整の痕跡は急しく方向ナズ。	D-8区	
000055	埴輪器：埴輪器	断面径：14.9 断面径：13.1 高：10.1	容で0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。	やや不良	外側：黄褐色内側：黄褐色	調整の痕跡は急しく方向ナズ。調整の痕跡は急しく方向ナズ。	E-11区	





調査番号	遺 跡	法量 (m)	起 土	築 成	色 澤	手法・調査の特徴	出土状況
第13003	土師質土器：黒	着定口径：8.7 着定底径：2.8 高：1.7	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13004	土師質土器：黒	着定口径：9.0 着定底径：2.9 高：1.9	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13005	土師質土器：黒	着定口径：9.4 着定底径：3.6 高：2.3	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13006	土師質土器：黒	着定口径：9.5 着定底径：3.6 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13007	土師質土器：黒	着定口径：9.5 着定底径：3.6 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13008	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.8 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13009	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.8 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13010	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.8 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13011	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.8 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13012	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.8 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13013	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.8 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13014	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.8 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13015	土師質土器：黒	着定口径：10.0 着定底径：4.0 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13016	土師質土器：黒	着定口径：10.0 着定底径：4.0 高：2.0	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13017	土師質土器：黒	着定口径：9.9 着定底径：3.6 高：2.3	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13018	土師質土器：黒	着定口径：9.5 着定底径：2.4 高：2.4	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13019	土師質土器：黒	着定口径：9.6 着定底径：2.4 高：2.5	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13020	土師質土器：黒	着定口径：9.0 着定底径：4.3 高：2.5	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13021	土師質土器：黒	着定口径：9.0 着定底径：4.3 高：2.5	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	口縁部内外共に凹みナシ。底部に凹みあり。	T-11
第13701	鉄製品：刀子?	最大長：18.8				2本の遺棄されている。	T-11
第13702	鉄製品：刀子?	最大長：18.8				2本の遺棄されている。	T-11
第13703	鉄製品：刀子?	最大長：18.8				2本の遺棄されている。	T-11

平成9年度出土遺物観察表

調査番号	遺 跡	法量 (m)	起 土	築 成	色 澤	手法・調査の特徴	出土状況
第13001	石部：有蓋土師器	残 存長：6.8					T-6
第14101	土師質土器：高台付椀	着定口径：7.3 着定底径：5.5	着で0.5-3mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	外縁部凹みナシ。内縁部凹みナシ。	T-9 S.K-03
第14102	土師質土器：高台付椀	着定口径：7.5 着定底径：5.3	着で0.5-3mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	外縁部凹みナシ。内縁部凹みナシ。	T-9 S.K-02
第14103	土師質土器：高台付椀	着定口径：15.3	着で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	外縁部凹みナシ。内縁部凹みナシ。	T-9 S.K-01
第14104	土師質土器：高台付椀	着定口径：16.7 着定底径：7.7 高：6.8	着で1-2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	外縁部凹みナシ。内縁部凹みナシ。	T-9 S.K-05
第14105	土師質土器：高台付椀	着定口径：16.4 着定底径：8.0 高：7.8	着で0.5-3mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色	外縁部凹みナシ。内縁部凹みナシ。	T-9 S.K-04

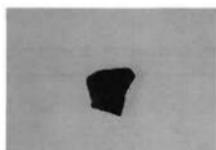
梨子谷遺跡出土遺物観察表

種別番号	部 位	寸法 (mm)	材 質	状 態	色 調	予 述・調査の経緯	出 土 点	
第14501	須臾部：環底	口径径：13.6 高：4.2	土	径で1mm程度の白色砂粒を多数に含む。	良好	外面：青灰色 内面：灰色	口縁部は内外共に同軸ナズ。天井部外周は同軸ヘラナズリ。	14L区
第14502	須臾部：外底	固定口径：13.0	土	径で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：灰黒 内面：灰黒	口縁部は内外共に同軸ナズ。	14L区
第14503	須臾部：環底	固定口径：10.0 高：3.4	土	径で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：灰褐色 内面：灰褐色	口縁部は内外共に同軸ナズ。天井部外周は同軸ヘラナズリ。	14L区
第14504	須臾部：外底	口径径：12.0 高：2.4	土	径で1mm程度の白色砂粒を多数に含む。	良好	外面：灰色 内面：灰色	口縁部は内外共に同軸ナズ。天井部外周は同軸ナズリあり。	14L区
第14505	須臾部：外底	固定口径：11.8 高：3.2	土	径で1mm程度の白色砂粒を多数に含む。	良好	外面：暗褐色 内面：青灰色	口縁部は内外共に同軸ナズ。	14L区
第14506	須臾部：外底	口径径：10.0 高：3.2	土	径で1mm程度の白色砂粒を多数に含む。	良好	外面：青灰色 内面：灰色	口縁部は内外共に同軸ナズ。天井部外周は同軸ナズリあり。	14L区
第14507	須臾部：環底	固定口径：6.6	土	径で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：青灰色 内面：暗褐色	口縁部は内外共に同軸ナズ。	14L区
第14508	須臾部：環底	固定口径：11.8 高：4.0	土	径で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面：暗褐色 内面：青灰色	口縁部は内外共に同軸ナズ。天井部外周は同軸ヘラナズリ。	14L区
第14509	須臾部：外底	口径径：13.8 高：3.0	土	径で1mm程度の白色砂粒を多数に含む。	良好	外面：青灰色 内面：灰色	口縁部は内外共に同軸ナズ。	14L区
第14510	須臾部：外底	固定口径：14.2 固定底径：9.6 高：4.6	土		良好	外面：青灰色 内面：青灰色	口縁部は内外共に同軸ナズ。内周側に一ヶ所ナズリ。	14L区
第14511	須臾部：高坏	固定口径：27.0	土		良好	外面：黒褐色 内面：灰褐色	口縁部は内外共に同軸ナズ。	14L区
第14512	須臾部：輪	固定口径：12.0	土		良好	外面：青灰色 内面：青褐色	断面の寸法調査は不明。断面に2本の沈線あり。	14L区
第14513	須臾部：底	固定口径：18.6	土	径で3mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面：暗褐色 内面：暗褐色	口縁部は内外共に同軸ナズ。	14L区
第14514	土師部：底	固定口径：18.2	土	径で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面：暗褐色 内面：暗褐色	外周はヨコナズリ。内周はヨコナズリ及びヘラナズリ。	14L区
第14515	土師部：底	固定口径：18.8	土	径で0.5mm程度の白色砂粒を多数に含む。	良	外面：暗褐色 内面：暗褐色	断面の寸法調査は不明。	14L区
第14516	土師部：土師	固定口径：4.8	土		良好	外面：暗褐色 内面：暗褐色	断面の寸法調査は不明。	14L区
第14517	土師部：高坏	固定口径：11.8	土		良好	外面：暗褐色 内面：暗褐色	断面の寸法調査は不明。	14L区
第14518	土師部：高坏	固定口径：9.2	土		良好	外面：白褐色 内面：白褐色	断面の寸法調査は不明。	14L区
第14519	土師部：瓶		土	径で1mm程度の砂粒を多数に含む。	良	外面：灰色 内面：暗褐色	外面はヨコナズリ。内周はヘラナズリ。	14L区
第14520	土師部：土師		土	径で1mm程度の砂粒を多数に含む。	良	外面：赤褐色 内面：灰色	断面の寸法調査は不明。内周はヘラナズリ。	14L区
第14521	磁石		磁石			外面：暗褐色 内面：暗褐色		T 12

昭和61年度



20-1



20-2



20-3



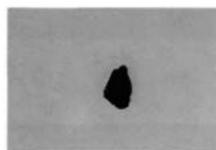
20-4



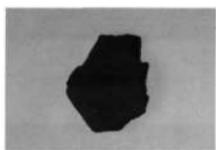
20-5



20-6



20-7



20-10



20-11



20-12



22-1



22-3



22-4



22-5



22-6



22-2

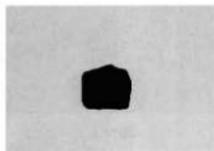
昭和62・63年度



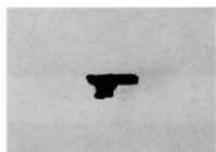
28-1



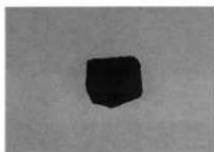
28-2



28-3



28-4



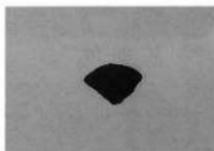
34-1



34-2



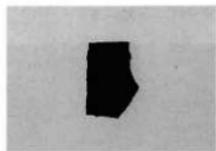
34-3



34-4



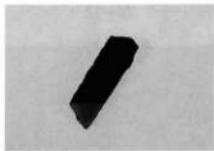
34-5



34-6



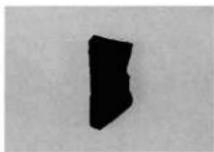
34-7



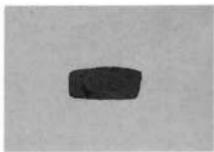
34-8



34-9



34-10



34-11

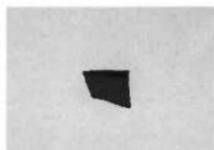
昭和63年度



34-13



34-14



34-15



35-16



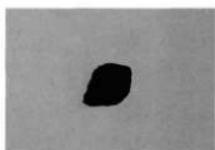
35-17



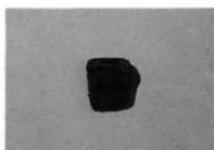
35-18



35-19



35-20



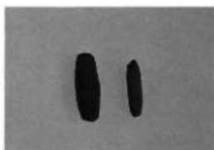
35-21



35-22



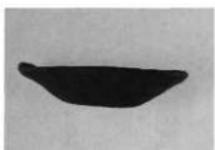
35-23



35-24



35-26

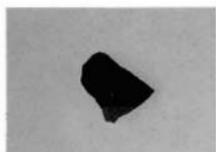


35-25



35-27

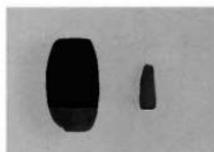
昭和63・平成元年度



35-28



35-29



36-30、32



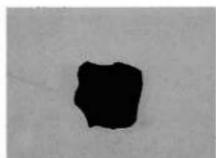
36-31



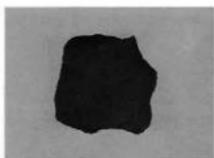
56-1



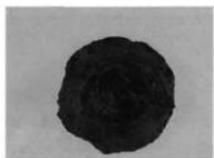
56-2



59-1



59-2



59-3



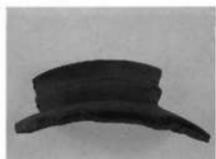
59-4



61-1



61-2



61-3



61-4



61-5

平成元年度



61-6



61-7



61-8



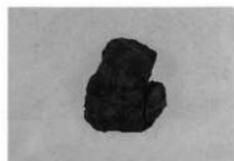
65-1



62-1



62-2



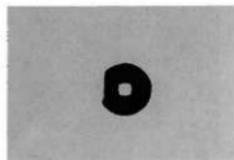
62-3



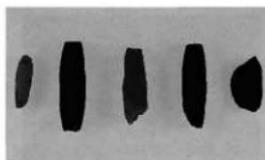
62-4



62-5



62-6



62-7、8、9、10、11

平成 2 年度



85-1



85-2



85-5



85-10



85-3

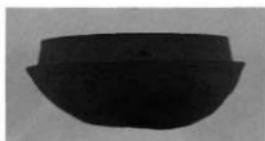
85-4



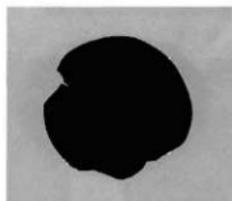
85-6



85-7



85-8



85-9

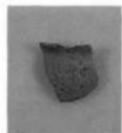


85-11



85-12

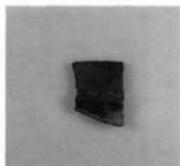
平成 3 年度



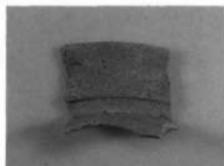
87-1



87-2



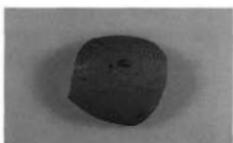
87-3



87-4



87-5



87-6



87-7



87-8



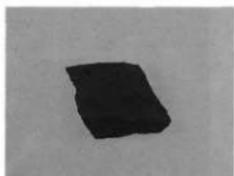
87-9



87-10



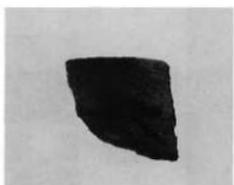
93-1



93-2



93-3



93-4



93-5

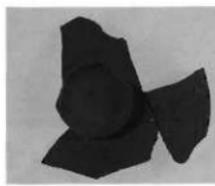
平成 3 年度



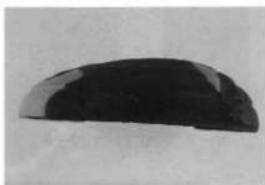
93 - 6



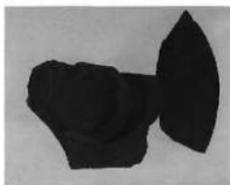
93 - 7



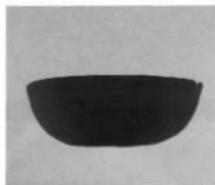
93 - 9



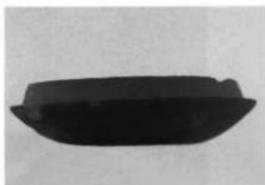
93 - 8



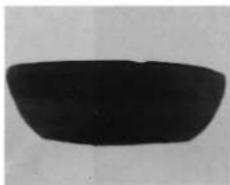
93 - 10



93 - 12



93 - 11



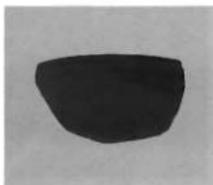
93 - 13



93 - 14



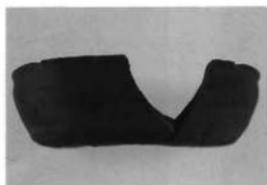
93 - 16



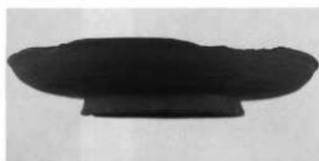
93 - 15



93 - 18



93 - 17

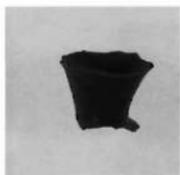


93 - 19

平成3年度



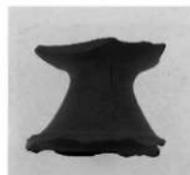
92 - 1



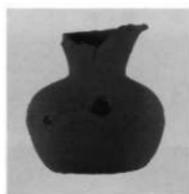
92 - 2



92 - 3



92 - 4



92 - 5



92 - 6



92 - 7



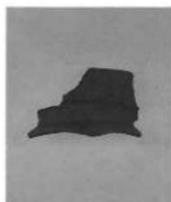
92 - 8



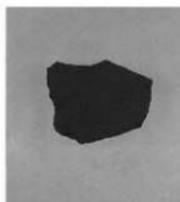
92 - 9



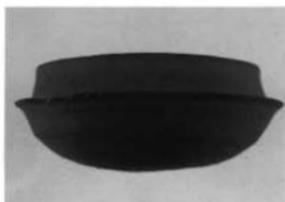
92 - 10



96 - 1



96 - 2



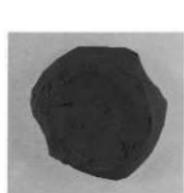
96 - 3



96 - 4



96 - 5

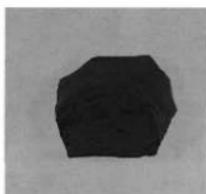


96 - 6

平成3年度



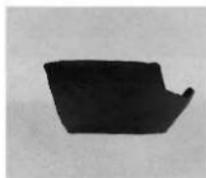
96-7



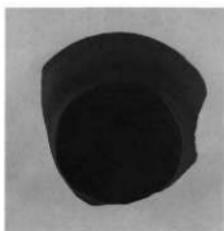
96-8



96-9



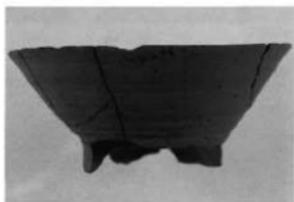
96-10



96-11



96-12



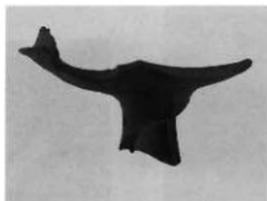
96-13



96-14



96-15

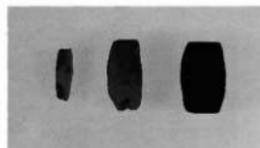


96-16



96-17

平成4年度



106-1、106-2 106-3



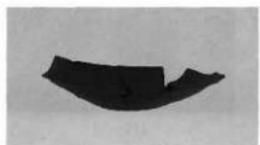
107-1



107-2



107-3



107-4



107-5



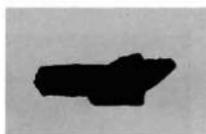
107-6



107-8



107-10



107-12



107-7



107-9



107-11



107-13

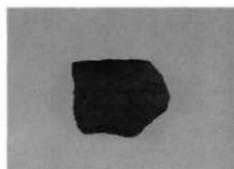


107-14



107-15

平成5年度



111-1



111-2



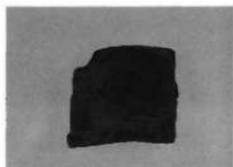
111-3



111-4



111-5



111-6



111-7



111-8



111-9



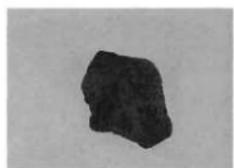
111-10



111-11



111-12



111-13



111-14



111-15

平成5年度



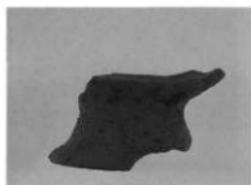
111-16



111-17



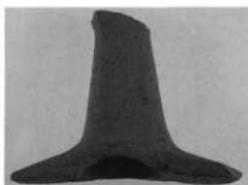
111-18



111-19



111-20



111-21



111-22



111-23



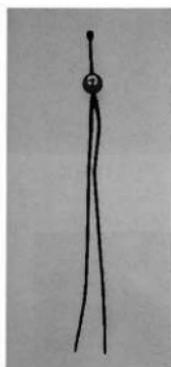
111-24



111-25

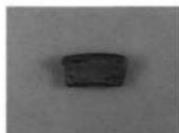


111-27

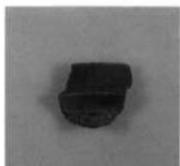


111-26

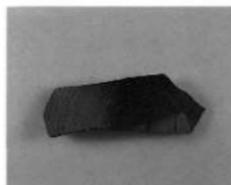
平成6年度



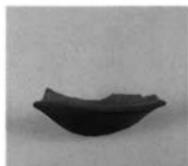
113-1



113-2



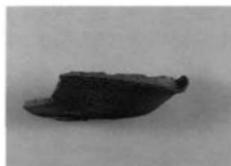
113-3



113-4



113-5



113-6



113-7



113-8



113-9



113-10



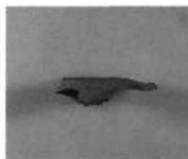
113-11



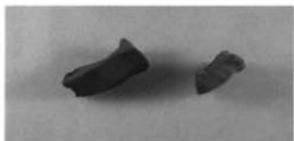
113-12



113-13

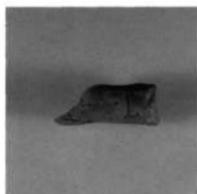


113-14



113-15, 16

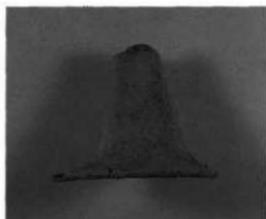
平成 6 年度



113-17



113-18



113-19



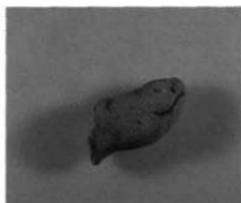
113-20



113-21



113-24



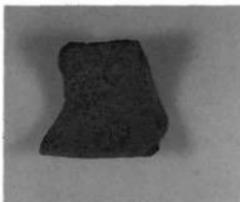
113-22



113-25

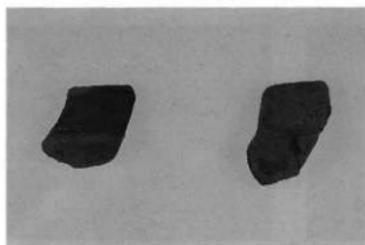


113-23



113-26

平成7年度

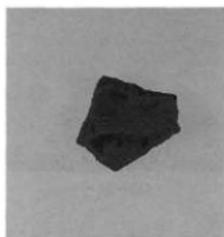


115-1

115-2



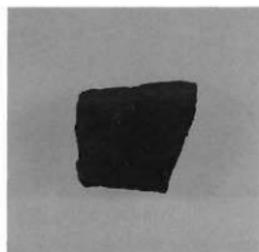
115-3



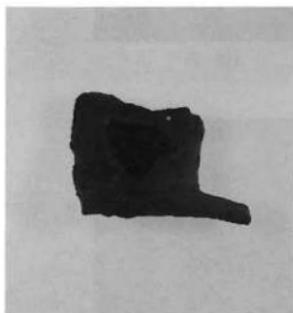
115-4



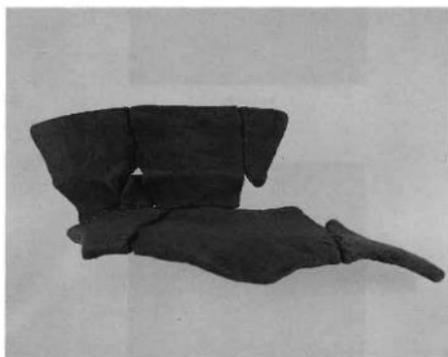
115-5



115-6



115-7



115-8

平成 8 年度前期



119-1



119-2



119-3



119-5



119-6



119-11



123



125-1



125-2



125-3



125-4



130-1



130-3

平成 8 年度後期



136-1



136-2



136-3



136-4



136-5



136-6



136-7



136-8



136-9



136-10



136-11



136-12



136-13



136-14



136-15

平成 8 年度後期・ 9 年度



136-16



136-17



136-18



136-19



136-20



136-21



141-4



141-5

梨子谷遺跡



145-1



145-2



145-3



145-4



145-5



145-6



145-7



145-8



145-9



145-10



145-11



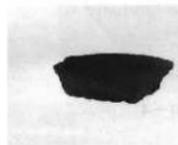
145-12



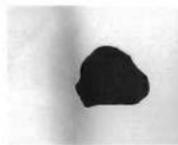
145-13



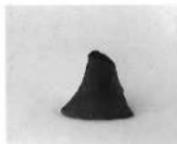
146-14



146-15



146-16



146-17



146-18



146-19



146-20



146-21

## 報告書抄録

ふりがな	まつえほくとうおいせきはつくつちょうさほうこくしょ					
書名	松江北東部遺跡発掘調査報告書					
副書名	本庄地区原営岡場整備事業に伴う発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編集者名	金山正樹、他各年度担当者					
編集機関	松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団					
所在地	〒690-0846 鳥根県松江市末次町86番地 TEL 0852-55-5294					
発行年月日	西暦1999年3月31日					
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡
	市町村	遺跡番号				
まつえほくとう 松江北東部 遺跡	鳥根県松江市 上本庄町	32201	35°30'40"	133°07'20"	19861104~ 19981001	16,114.3
調査原因	本庄地区園場整備事業に伴う事前調査					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
松江北東部 遺跡	集落跡 墳墓 散布地	弥生時代 古墳時代 中世 近世	竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 小鍛冶跡 井戸跡 古墳 土壌墓 土塹 溝状遺構 中世墓	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、埴輪、陶磁器、鉄製品(簪・刀子等)、土製品(土鏝・土馬)、石製品(石鏝・有舌尖頭器・勾玉・管玉・砥石等)、鏡、硯、貨幣、木製品(山下駄等)、		

松江北東部遺跡発掘調査報告書

1999年3月

発行 松江市教育委員会

印刷 松栄印刷(有)

松江市西川津町667-1